

地上げ屋ですう シリーズ

1章 『大田区御嶽山への思い入れ』

おお～、マンションの上の階の住人はお盆休みで帰省しているのかなあ～。

ありがたいことに、昨夜は年に一度の窓を開けて寝ることができた～。



(おお～、大地の匂い。爽やかな風。くんくん)

上の階の方が引っ越してきたのは、3年前くらい。

毎日夜 10 時に洗濯機を回す習慣のようだ。

その後にベランダに洗濯物を干すわけで、その洗濯物👕の柔軟剤の匂いが、すごい勢いで部屋の中に入ってくる。

1年半前くらいから柔軟剤を変えた様で、その匂いしたら、量を誤っているのかハンパないのです。

咳が出ちゃうのだ～🤧

そのちょっと前の時期には、1階の人が引っ越してきてベランダで、夫婦揃って20分に1回ほどタバコを吸う様になった。

タバコの煙が寝室に入ってきて、プーンと匂いが充満し、まるで私がタバコ🚬を吸っているかの様に部屋にこもった。

これで、ベランダ側の窓は開けれなくなりました。

辛かったけど、それでも夜中 12 時以降はタバコを吸わないみたいなので、夜は窓を開けて新鮮な空気を吸い、眠りは確保されていた。

ありがたいことに、1年も我慢したら(怨念入れてたかな?)どうやらタバコをやめてくれたみたいだ。

で、ほっとした直後の夜干し柔軟剤事件なので…、
なんかね～、悲しくなっちゃうね～😞

私にとって、虫の声🪲や木々🌲の揺れる音を聞きながら寝るのが嬉しい人なのだ。
だから窓を開けて寝るのは大好きなのね。

大田区御嶽山。

都会の割には、ちょっとだけだが、緑🌿があるの。

ほんの束の間だけど、猛暑の夏だけど、

昨夜は柔軟剤を嗅がずに済む大事な時間を味わおうと窓💖を開けて寝た。

風で、木がさわさわとゆれる音が心地いい。

今日も、同じことが出来るといいなあ。



(おおおおおおお～🎵大地よ～)

私は品川区の戸越銀座というところに実家があった。

小さい頃の住んでいた環境は、東京タワーや富士山🗻がベランダから見えたものだ。
もちろん日当たりも良かった。

小学校に入る少し前くらいだったか、隣の家が7階建てのビルを建て🏢、
家の東南は塞がれて日は当たらなくなった。

さらにびっくりなのは、ここは静かな住宅街のはずなのに、
南隣に町工場ができちゃったのだ。

それからというもの、

日々、金属をプレスする低い振動と金属の音は朝 9 時から夕方 5 時まで続き、

時には絶対に体に悪いだろうと、思える科学的な匂いもプーン、、としてくる。

ドシ〜ン・ドシ〜ン。ドドド❌

シャリンリンリン⚡

地響きと金属音の繰り返し。

のどかで快適な毎日から周囲の環境が一変し、家は寒くて真っ暗けっけ●

鳥はカラスだけが集団で勢い付き、

「アホカ〜アホカ〜」と身近で話ているような生活をしてきたせいか、

お日様☀️や、ささやかな自然の恩恵を受ける環境に居られるだけで、

私は幸せを感じられる。

嫁に出て、川崎市の元住吉に住んだ。

一番嬉しかったのはその所の所かもしれん。

目の前は車の通る🚗道路だったけど、それでも朝が朝だと感じられる。

だってお日様🌟が入って目が覚めるから。

お日様を十分に感じられた生活を元住吉の社宅で 10 年過ごすとは・・、

父が亡くなり、病気の母が独りになったので、私たち家族は実家の戸越に戻った。

そこで飼った犬のメリー🐕は、工場の金属音❌が大嫌いで、吠えていた。

聴導犬にもなれるほどの敏感な聴力を持っている犬にとって、辛い環境だと思う。

気が狂ったようにメリーは吠え続けるので、私はさらにノイローゼのようになった。

不整脈は、どんどん悪くなる。胸もキュンとしてくる。

メリーは 18 歳の老衰で死んだせいかもしれないが、

最後はほとんど耳が聞こえなくなっていた。

敏感じゃない方が時には生きやすいものだ。

いくら快適な家を選んでも、後から生き辛くさせる人がやってくると、毎日の生活が不快になり、家族の健康も危ぶまれることになっちゃうのだ。共存して折り合いをつけるって大変なことだね。

(そういう私も、知らず知らずに迷惑をかけとるんやろうな～)

でもでも…✖

お日様が☀入って、周りが静かな家に住めれば私は幸せなのかな？
と思っていたが、

家の環境ってそんなものじゃなかった。

それは 15 階建ての高層マンション🏢を買ったずうっと後になって、気がついたのだ～。

住居は、🏠最上階 15 階。

屋内は 100 平米以上ある間取りで、ルーフバルコニーが 60 平米はユウにあって部屋の周りをぐるりと囲み、畑ができるほどの贅沢な空間だった。

大田区の多摩川をのぞむことができる憧れの🎵リバーサイド🏡だ。

ずうっと頑張って節約して、貯金💰をはたいて買ったマンションなのに、住んでみるとな～んだか嬉しくない。落ち着かない。

ついうろろしちゃう🏃 お昼寝をしてもスッキリしない。ドキドキしちゃうのだ。



(ふにゃ～、なんか中途半端な脱力きゃん)

犬のメリーは、吠えることは殆どなくなった。
やることがないから寝ていることが増えた。
周囲の環境を感じるができないからだろう。

そうなると、家族の動きくらいしかメリーは興味がなくなっている。
これで散歩してもらえなかったら、囚人みたいなものだ。

今年1月から、
セラピールームを大崎駅・五反田駅から5分のところにある高層ビルの18階に借りた。
友人とシェアしたのね。ちゅうか、途中で仲間に入れてもらった。
家賃は高額だが、とっても綺麗なマンションだった。

立地もいいのでクライアントさんが来てもらいやすいだろうと、
セッションを週に1~2回そこでやって、
セミナーを月に1~2回はやろうと考えて貸してもらった。

だけど、3回くらいセッションを試みて、何かが違う！って感じた。
セッションをやっているけどどうも落ち着かない。

直感も閃かないし、気持ちの躍動感、パワーが湧いてこないのだ。
セッションの結果もイマイチ、ピンと来なかった。
だから、セッションはやめて、月1度のセミナーのためだけに借りることになった。

この時、やっとわかったのだ!!!

多摩川のリバーサイドのマンションが私は本当は嫌だったのだと。

メリーは実家の戸越にいた時とは違い、とっても落ち着いていたけど、
私は落ち着かなかった。

いや、メリーが落ち着いていたのは、
ただ単に、自然の命、エネルギー🌀を感じられなかったから、退屈だったのかもしれない。

その後、私はこのマンションと家族を残して一人で出てしまった。
財産をほっぽり投げ捨てて。
(今考えるとアホか狂気です)

だから1年もそこには居なかった。超わがままな家の出方だったと思う。

「日当たりのいいマンションが欲しい！」

って、旦那様にずう〜と訴えていて、それがやっと叶ったのにもなのだ。
自分なりの理由があったにせよ……、

本当にごめんなさい。🙏旦那様。あなたの心を踏みにじってしまいました。

(でも、その時は私なりの訳はあったのよ。被害者意識満載の私だったからね～)

そして、自分の意思で動けないメリーを置いていったことも、

私の罪悪感に追い打ちをかけた。

そんなことがあって、ずっと自分を責めていたが、

大崎・五反田のセミナールームを借りた時に、ハッと気付いたのね。

私って、地球の恵み(高層過ぎて)を感じられない生活をしていると、

心身のバランスが👉崩れてしまうのだと。

(超敏感体質がまず)

高層マンションは私にとって本来の私じゃなくさせられてしまう。

きっとグランディングが乏しくなるから、落ち着かずにウロウロしてしまうのだろう。

少しずつ健康を取り戻した今だからこそ、それがわかるのだ～。

そして、知人とシェアさせてもらった大崎のセミナールームは7月をもってキャンセルした。

セミナールームをシェアしてくれた友人は、

「実は、那旺さんにはあの部屋は無理だと最初から思っていたんだ。

微細なセッションをしているからね。その気持ちよくわかるよ！」

頼んでおいて部屋を借りた挙句に、突然のキャンセルを言い出した私に、

オーナーになる友人は、こう言ってくれた。本当に大きくてありがたい存在です。

3階以上のところには、大地の気が届かない。

せいぜい、4階までが限界だと気学の先生が教えてくれた。私もその通りだと思う。

メリーもそう言いたかったんじゃないかな。

宇宙🌌の栄養をもらえないことが、私には大きな打撃になるということも、

18階の大崎ルームでセッションをしていてよくわかった。

その後、品川の西大井・中延に移り、ここは4階。

5年は過ごしたが、干している洗濯物👕の匂いがどう考えても変だと思うようになった。

戸越の工場の時のような、ケミカルな匂いが洗濯物についている。

タオルで顔が拭けないのね、臭くって。

西大井に住んで5年過ぎた頃、咳が出る👃様になった。1ヶ月半、咳が止まらない日々を過ごし、

このままでは死んでまうじゃん！

この症状って風邪じゃないじゃん！

と、寝床で気づいた私は、布団から飛び起き、地図を広げて、気学の吉方の方位を探した。

それが、六白金星の方位・イマココの🏠池上線の御嶽山だった。

Door To Door 🏠、布団から飛び出し、

思い立ってから2時間で決まった物件だった。

家相が何一つも問題なく素晴らしかった。

四方の環境が完璧だったのだ。

やっぱり思った通りだった。引っ越して、咳はすぐに止まった。

ゼイゼイしていた胸はもう音はしなくなり生き延びた～🥰

そういう意味では、今の住居は今まで私が暮らしてきた中で、

私の一番のご馳走さま🏠なんだ。

そんなグッドだった環境でも、まさかの柔軟剤。

騒音ならまだしも、柔軟剤となると、まさか社会的に文句も言えないだろう。

私の鼻が良すぎるのか！



(すげ〜ど、おいらの鼻の穴穴穴。)

頭がクラクラするほどの柔軟剤の匂いは、窓を閉めれば回避できる。

でも…、

それと同時に、私の喜びの一つは消えた🥰

虫の声と、木々の囁きを聞きながら眠り、鳥の声🐦で目が覚める🌅朝がなくなった。

人と暮らすのは本当に大変だ。自然と共存することも・・・。

どこかで折り合いをつけないといけない。

せっかくい環境を選んで住んでも、

後から来る破壊屋さんは当然悪気はないわけで、

私も知らぬうちに、人にストレスを与え、迷惑をかけたりにしているのかもしれない。

一番迷惑なのは自然たちだろうが、何の文句も言えないで踏ん張っている。

自分や家族のライフスタイルを重要視している知人たちはポツポツと環境を変え、

山梨や長野に移住し始めている。

それでも、大田区の都会だけど、

この御嶽山という場所は私が今まで生きてきた中で、

一番大好きな環境なんです。

だから～～～♪

年に1度のこの喜びを、いま味わおう。夏休みで上の住人が帰ってくるまで。

とか何とか言っちゃって。

柔軟剤がくせえくせえ～、と私の中で日増しに文句をつぶやくようになり、

「こんな臭いところはもう嫌だ！引っ越したる❌」

って文句を言いまくっていたら、何と現実になっちゃいました～。

またもや現実化。。あ～～～～。。

「ごめん。ナイスう～♪」

気学の学びのおかげで、私は今いる御嶽山のセッションルームに吉方で来させてもらいました。

そんな御嶽山セッションルームも10月を最後に去ることになります。

だんだん環境の変化で住みづらくなってきてね～。

毎晩夜遅くに上の階の人が洗濯機をグワ～ングワ～んと鳴らし始め、



(チャッピー。。お水ドドド～)

それくらいは自分の中では許容範囲(嫌だけど)だった。

その後、ベランダに洗濯物を干すわけで、

それが・・・柔軟剤の匂いが半端なくおってきて、家中が柔軟剤臭くなっちゃうんです。

どれほどの柔軟剤の量を入れているんだろか！って思うけど、

その前に私の鼻が犬のように良すぎて、普通の人より辛くさせているのかもしれない・・・。

「科学的なニオイは頭を次第におかしくさせるんだけどな～。」

と独り言。

私はこの御嶽山ルームに引っ越してきて一番嬉しかったのは、

朝は鳥の声で目が覚め、夜は虫の音を聴きながら眠れることでした。

ベランダから太陽の日差しを感じ、空を見上げると広～～～い

(わ～～～い)



(ぐひゃ～、マブイっす)

昼間は近くにある保育園の園児たちの躍動する声が、

この地のエネルギーを上げてくれている。

ニュースで、保育園建設反対運動をしている人たちの声を聞いたことがある。

「子供達がいると静かな街がうるさくなるから嫌だ！建設反対！」

と言っていた。

わからなくもないが、そのうるさい声を「雑音」と聞か、

「躍動する声がこの地のエネルギーを上げてくれている」と聞かでは、

大きな違いだよな～って思っていた。

表面上だけのものしか見えない人間 ✖ 物質界だけにしかとどまれない人間 ✖✖

さらに話を戻すと、私は御嶽山の南むきの部屋から、見える大きな樹たちが緑豊かに風になびき、

ダンスしている姿を眺めているのが嬉しかった。



(ちんちんぶらぶら。。ダンス💕 ダンス💕 ダンス💕)

それが、たかが柔軟剤くらいで私の楽しむ環境を一変させ👤
窓を閉めないと辛くなったのじゃ～。

それだけじゃない！

(今日は愚痴を言う日でしょうか？あれれ??→ちやいますで～)

きっと私よりずっと先輩の樹木たちは、
目の前に新居を建てることになった人の苦情から 20 本も伐採され、
その中の 1 本は3階に届くくらいの背の高さだった。
すでに何年生きてきてくれたんやろか？

切られた後は悲しくて、悲しくて、

「ごめんなさい👤」と、手を併せてしまいました。。。

それから・・・、「後から来たくせに、お前の方が偉いんか👤」

って、プンプンしてた。

地球も宇宙も全てのものは陰陽・裏表でバランスを取って変化しています。

ずっと遠くのアマゾンの植物🌿さんたちと日本に住む植物さんたちは、

ちゃんとコミュニケーションを取って繋がっているといいます。

それが植物の能力の一つなのね。

もしも、20 本の木が伐採されたら、

アマゾンでも直ぐに噂話👄になっていることでしょう。

「おいおい、また、死んだよ👤」。みたいに。

想像してみてください。20 本の御嶽山の木が大地と繋がっているわけで、

彼らは、私たちが出す排気ガス👤や汚物を処理してくれているのは承知の通りですが

それは私たちの中で当たり前のことになっていて、

当たり前が当たり前過ぎて、

植物がそんな働きをしてくれていることさえも忘れて・・

気づかずに・・🌀、

せいぜい暑い夏の日、

木陰の下に居させてもらった時くらいに、

やっと存在に気づくかもしれないが。

何てったって、彼らが偉いのは私たちのネガティブな感情や意識さえも

吸い取ってくれている縁の下の力持ち👉ということなのだ。

20本の私たちを支えてくれる樹木がなくなるってどんなことになると思いますか？

大地からしたら・・・、「また私のサポートが消えたな。

邪気を吸う役目を20本分自分が受け持つしかないな。

そろそろガス抜きしようっと！」と言って、大地がガス抜きオナラ💩をして地震を起こすのも自然の摂理なのかなあ。。

だって、陰陽のバランスは常にあり、誰かが肩代わりするように出来ている。

そういう私も、物質界バリバリ、感謝無しの人間でした。

観葉植物殺人事件💀は何度も繰り返し、

(水のあげすぎ&あげなさすぎ)、

柔軟剤の匂いも、結構好きでした。

中学生の頃は、

花王石鹸の「ホワイト」という銘柄の石鹸の匂いを枕元に置いて嗅いでいました。

(初恋の匂いがする💕と勘違いしていたから)

味の素も本物のダシと勘違いして、漬物が真っ白になる程かけていました。

(それは、お母さんが・・だけど👵)



(漬物味の素が真っ白しろくまだよ～)

では御嶽山をなんで10月に去ることになったか？という～、

たかが柔軟剤の入りすぎた洗濯物の匂いくらいのことで、
都会ながらも、ちっちゃな自然の恩恵を楽しんでいた環境を一変させられて、
窓を閉めないと辛くなったのじゃ～。

ベランダには、ウッドデッキを敷き詰めて、
プランターにはハーブを植えて、ロッキングチェアに横になり、
お日様を浴びて、読書をするのを楽しみにしていた。

が~~~~、すべて水の泡っす。



(アワアワあわわわ。ゲロうまくね～っす)

だって、今のベランダは、私にとって、咳する場所に変貌してしまいました～。

この様なストーリーを背景に、

私は3月に、「も～嫌だ、引っ越したい！」と宇宙に文句を垂れたら、
ななな～んと翌月の4月に、ほんまもの地上げ屋が来たのでした～。

2章 『地上げ屋現る・・・やっさんでっしゃろか？』

「ピンポ～ン、この家の管理会社が変わりましたんや～。

地上げ屋ですう。

お宅さん、10月に出て行ってくれまへんやろか・・・」

ってな調子で黒服を着た、かつて吉本興業の花形だった

「やすきよ」の横山やすしみみたいな細身の大阪人が目の前に現れたのだった。



(地上げ屋です。わしは気が短いんや！ちゃっちゃと出て行ってな！)

「うっ！早すぎる。宇宙に告げ口した途端に、またもや現実化させてしまいました〜！」

そんなこんなで、脅されて(へへへ〜)どうやら 10 月には、「出て行かないぜ！」って頑張って、ブルドーザーに敷かれて死んじゃうか、おとなしく引っ越すか！の運命になりそうです。一生のうちに地上げ屋さん(本場もんの大阪ヤクザさんやろか?)に出会えるチャンスなんて滅多にないのだから、ちょっと人生勉強をさせてもらおう〜〜っと！

今後の成り行きをワクワクしている私でございます。
なんてたって、私は人間の生体観察が趣味でんねん。



(あら！まあ！あんなことしくさってるわ！)



(最近の人は、こっちの家政婦ですかね)

まだ、5分位しか話してないが、ちょっと見た感じだけど、

地上げ屋の兄ちゃん、古い時代の大阪人っぽい感じ。
相当の海千山千で、腰が据わっている。

吉本新喜劇を一人芝居している風にも見えてくる。
風変わりな人間を見ることは、私の大好物なのね。

なぜなら、人間の奥の奥を解明することは、セッションのヒントになるからじゃい。
な～んか、妙なものが飛び込んできた感覚です。

その1ヶ月前の那旺:「外からの柔軟剤臭が辛すぎる！
この家にいるのも、とうとう潮時だわ、出っ行ってったる👊」

と啖呵を切っちゃった翌月に、ほんまもんの地上げ屋が出現してしまった。

またもや現実化！そんなに私って真剣に宇宙におねだりしたかな？？

地上げ屋さん:

「大変にお気の毒なんですがねえ、決まったことなんで・・・スンマセン。
10月に出て行く約束をしてくれまへんやろか？
今日、ハンコついてくれたら、いいことありませ」

那旺:「はあ？それって、へんくなあい。今日来て、今すぐハンコつけて？
それってヤクザさんが言う事じゃんか！もしかして、本物のヤクザさんですのん？」

地上げ屋さん:

「そんな、滅相もないですわ～、ヤクザなんて。管理会社でスウ。
・・というのは建前で、ホントは地上げ屋なんですわ。👤」

那旺:「わ～～～(あの悪名高き←と心の中で思っている私)
地上げさんを、ナマで見られるなんて、超ビックリ！
で、私、テレビ📺みたいに怖いことされるんだっけ？」

地上げ屋:「イエイエ。昔ならともかく、今そんな酷いことをしたらすぐにコレですわ～」

っと、お縄🔪(手錠をはめられた)ポーズをして見せた。
さすがは大阪人、ポーズが決まってる。
ケツを突き出しながら、両腕を出している。



(ケツ突き出してお縄でござるワンシーン)

私も、せっかくだから同じように心理カウンセラーとしておなじみの
ミラーリング法で、ケツ出しお縄ポーズ🍑をやり返して見せた。

(でも思ったほど、地上げ屋はウケてはくれなかった😓)

こんなに面白い事してあげたのに、この地上げ屋さん、余裕がないのかな？
また、リベンジしたと心で思いつつ。)

地上げ屋:「奥さん、そうなんですわ〜。

住んでいる人が法律で守れるようになって、

昔のように脅しでは簡単にハンコついでくれへんから、
すっかりなんぎしてますわ〜。ところで、どうですかね〜……」

つと、地上げ屋は、

玄関の半分開いたドアから顔👤を乗り出すように近づいてきた。

次のポーズはコレでした。



(内緒の話でっせ。シー)

↑(あっ！指が間違った。

地上げ屋が立てたのは中指じゃなくて、人差し指でした🚨)

那旺:「なにそれ？シー！って言っとるの？」

地上げ屋は向こう隣に聞こえないように

こそこそ話しに声のトーン👉を変えた。

(さすが、なかなか演技がよくできとる)

「こういう話はですねえ、個人交渉なんですわ。

地上げ屋の胸先三寸って感じでしてね。

奥さんが優位になるかは、私次第。ってな」

那旺:「へ～～、だからシイーなのね～。きゃ～大人の世界って感じ。」

そうこうやりとりが続きながら・・・、私はここからが本番交渉に突入か！

ってなモードの時に、ちょっと、時間を取ってやろうと思って

こういった。

那旺:「・・・地上げ屋さん、悪いけどさ～今からお客さんが来るのね。

今日はありがと。ほんじゃあ、またね」

っと、帰ってもらった。

実を言うと、この大阪人地上げ屋との話中、

私はウケにウケまくってずっと笑っていた。🤪

大阪人が話すごとに、何故だかいちいちツボにはまっているから、

途中で大阪人を馬鹿にしているんじゃないかと、勘違いされて

「ごめんなさい。ただ、笑っちゃうだけで、全然馬鹿にしてないから・・・」

と謝りながらまた笑っちゃうのだった。

地上げ屋:

「スンマセン。

東京弁は私も憧れなんですわ、よう喋れませんわ～。

東京の人って、かっこいいですもんねえ。

そんなに、私の話し方って変ですか？」

那旺:「そんなことないよ。

でもね、無料で吉本新喜劇を見させてもらっているみたいでさ～、
ありがたいなあって笑っているだけだからさ、
気にしないでね！」

大阪弁って、たとえ脅迫されていようとも、
迫力が有るようで無さそうな、
時には泣き落としがあっても情緒豊かで、
お芝居をやっているみたいなの、
そんな「遊びの間」があるから、爽快なのだ。

大阪ならではのルールが、
文化となって血液にしっかり染み付いているような、
そんなエネルギーを感じると、嬉しくて、
笑いが止まらなくなってしまった。

お江戸にしか住んだことのない私の DNA は、
この交流に心は沸き立ち喜んでいるのだ～。
でも、この地上げ屋さんはハートレベルで悪い人じゃないんだらうな～。

こんなに真面目で、あるいはヤバイな話なのに、
私ってどうして不真面目になっちゃうのか。

地上げ屋が来た翌日のことです。

ピンポ～ン 📞👍

お客様がいらっしゃる時間には少し早いなあと、
玄関ののぞき窓👁️👁️から外を見てみると、
見たこともない30代の男性が立っている。
Tシャツに短パン姿だ。

明治牛乳の勧誘かな？

(だいぶ具体的な想像です)って思い、
数分後にセッション時間が近づいているので、
申し訳ないけど返事はせずに、ドアは開けなかった。

(要するに居留守です)

すると、短パン男性は隣の家にもピンポンしていたので、

やっぱり勧誘じゃん！と思って玄関を離れようとしたら、
どうも、短パン男は上の階の住人のようだ。
話の内容をちと盗み聞きすると、どうも地上げ屋の話をしているみたい。

ちょっと興味があるので、そのまま玄関ののぞき窓から様子を伺った。



(シーだよ。物音たてないもんね)

上の3階の住人:「お宅には地上げ屋が来ましたか？🔑
先月、突然このマンションの所有者が変わったという
A4サイズのお知らせ1枚が、ポストに投函されたかと思ったら、

次は管理会社が変わったという名刺が配られ、ついには、
ヤクザのような男が3人くらいこのマンションをウロつく様になり、
とうとう、昨日は、地上げ屋が現れて、

10月までに出て行ってくれと言われました。
実際のところ皆さんはどんな状況なのかと思い、
マンションの全世帯を今、回らしてもらっているのです。

こういう理不尽なことが起こった時は、
みんなと結束して、こちらが有利に運べるようにしなくては
いけないんじゃないかと思ひまして。」

那旺の感想: そうだったのか。なるほど。
このお兄さん、真面目で誠実な人だとお察します。

隣の60代主婦:「来ました、来ましたよ。
わたし、本当に怖くて怖くて。
なんなのよ、急に👹。
突然来て、わたしにハンコつけて！
玄関にどンドン入り込んで、凄く怖い顔で脅してきて、

怖くて、も〜どうしたらいいのかわからなくなってしまい、
わたし、つい判子を押してしまいました。👉」

那旺の感想:お隣様、感情的なご様子。

たまに聞こえる親子ゲンカも半端なく劇場的💖なはずだ〜。



(奥さん、あんさんの顔の方が、コ、コ、コ、怖いぞす)

上の3階の住人:「そうだったのですか〜。

僕が留守の時にうちの嫁が対応したのですが、

うちのも、強く迫られて怖かった👉と

言っていました。

まるでヤクザのような、黒服👤で。完全に脅しですよ！

でも、嫁は「ハンコは主人が帰って来てから」と言ってくれたので、

まだ押していないのですが、

うちの隣の家の奥さんはやっぱり契約書に印を押してしまい、

区の弁護士に契約の破棄ができないかどうかを、

相談しに行くと言っていました。

1階の年配の夫婦は、ここが最後の住処と決めていたそうで、

かなりショック👉みたいですよ。

あの年齢になると、次の部屋を探すのが大変なんじゃないかな？

そういう意味でも、地上げ屋の言いなりにならないように、

皆さんで集まって交渉したらどうかと思うんです。

ところで、具体的に言うと、地上げ屋とはどんな交渉だったのか

よかったら教えてくださいませんか？」

隣の60代主婦:「今日中に判子をつけてくれたら、

10月まで家賃は払わなくて良いつて。

敷金も全額返ってくるとか。

そして、手附金として五万円をくれると言われて、
お金💰を貰っちゃいました。」



(五万円、しっかり握ってます～)

上の3階の住人:「そうでしたか。個別交渉とはいえ、
みんな同じようなことは言われているんですね。
それと・・・、引越し費用🏠は出すって言ってましたよね？
交渉するとしたら、

引越し費用をいかに多くもらうかが、
大きなポイントかと思うんですが・・・。
こうなったら私は出て行くしかないとは思っているのですが。
で、皆さんとの話し合いの場を土曜日に設けましたので是非ご参加ください」

ってなやり取りを、私はドアに耳👂をつけて聞いてしまった。



(はい～？👂👂👂なんじゃい?????)

それにしても、びっくり🤖です。

人によってこれ程、もの見方に差があるものなのか!!
全く同一人物の地上げ屋さんなのに・・・。

私とは印象がこんなにちやうとはねえ。

地上げ屋=脅し屋=というレッテルがそうさせるのだろうか！

じゃ、相手が弁護士だったら、世界がどう見えるんやろか？

本質は本人とのやりとり💖なのになあ。

昨日の地上げ屋さんとの会話は、

テンポの良い👤かけ合い漫才みたいで、

私にとっては愉快的やり取りだった。

(ただ胸を借りて遊ばせてもらいやした～)

脅しと言われたら、

そのニュアンスが全くないとは言えないけど・・・

だって地上げ屋さんなんだから。

私的には弁護士さんとあまりやることは変わらない気がするけど。

彼らのお仕事は、

「出て行ってもらってナンボ👤」で生活してるんじやし。

だからと言って、「判子をつかされた」って、

直ぐに被害者にならなくても良いのにな。

地上げ屋さんって、要するに交渉人でしょ。

片一方が怯えていたら話になりません。

この交渉は最初から撃沈・白旗です👤👤

恐れ👤の目線でものを見てしまうと、

見えるものが👤見えなくなってしまう。

隣の奥さんの話だけを聞いていたら、

あの人懐っこそうな大阪人地上げさんは、

ただの極悪人になっちゃうわ。

あなたが力がないと思った時点で、

加害者がこの世に創造されてしまう。

でも、これらの恐怖は社会とか親から教えてもらい、
真面目に受け継いだ💀ものなんですよ～。

被害者にも加害者にもならない選択肢はあるよ。

3章 『天の邪鬼』=物事を疑ってみるで～』

どうやら、世の中のほとんどの人が、
その人の本質(本霊)✨ではなくて、
見た目👁️とか経歴📄とか噂🗣️とかで、
その人との付き合い方を決めるようで。。

きっと私もそうだったに違いない。
ちゅうか、偉そうなことは言えない。

ソレそのものだっただろう🔪。



(過去を振り返るとつまらない人間だった。グググ～)

私は、1時間もしないうちに親友みたいになれる人が、
極マレにいるんだな～💩。

かといって何回会っても、それなりの人💩もいる。

1時間で親友になれる人は、
10回くらい会ったとしても、3年も経っていたとしても、
その人の経歴とか年齢とか、独身か結婚しているとか、
子供がいるとか、どこの大学を出たかとか、
ずっと知らないままのことが多いのだ。

会っていて、話は尽きないから、
そんなことを聞く脳みそがそもそもないし、きっとどうでもいいことなのだろう。
その人の、魂♡には何にも関係ない付属品じゃからだ～。



(あなたそのものが大好きなのよ)

こんなことが有った。
ある友人に知人の S さん紹介し、3人でお食事した時のこと、

S さんは、友人の年齢や経歴、
どんなことが趣味で、どこで生まれて、
結婚しているとか？子供はいるのか？とか、

ご紹介してすぐ 10 分くらい・・・、
物の見事にその質問を聞き終えたのだ。
息もつかないスムーズなノリだった。
きっと S さんの人との付き合い方は、
常にこういったスタンスなのだろうと想像できた。

よく考えると、私はその質問の何一つも、
友人について知らなかったんだと改めて気づきました。
やっぱりなんだか、そんな話は聞きたくなかった。
どうでもよかったのだ。

私の大好きな友人は、躊躇することも隠すこともなく、
にこやかに答えてくれたが、

私は、その光景を見て、
世の中ってこういう塩梅で人に興味を持ち、
人を吟味するものなんだなあ。

しかも私の事で、話しては欲しくないことも
S さんはわざわざ友人に説明していた。

「那旺さんってこうなのよ～」ってな具合に。

つまんね～。



(那旺、帰りたくなってきた～)

そういえば私もこんな風に、
昔はやっていたんだったなあって、

ついちょこっと前の自分なのだけど、
まるで、過去世🍀を覗き込んでいるような感覚です。

いつの間にか、私の価値観や物の見方、友人を選ぶ物差しが
変わってきているんだなって改めて感じた時でした。

最近、いらしてくれているクライアントさんの話です。。

多分数十回は他でカウンセリングを受けられて、
自分で内観を見る自己ワークも続け、
日々の心の安定はだいぶ保てるようにはなったけど、

ある一つの問題を解決したいのに、
どうにも起きている問題の原因がつかめず、
何度セッションでこのテーマに取り組んでも、

何の変化も見い出せず、
ほとほと困ってしまい🍀うちに来てくれた。

そこが変わらないことには、日々の生活に支障があるからだ。

多分、何をやってももう解決は無理だろうと諦め🍀ながらも、

他のカウンセラーさんから紹介されてうちに来てくれた。

紹介された理由の一つは、セッション中に憑依がかってしまい、

スムーズにワークが進まないということだった。

やってみて、確かにセッション中は目を見張る程、

奇想天外な光景だった👁️けど、

霊的存在👤だって、レッテルを貼らなきゃ、

ただの意識を持ったフィールドの濃いエネルギー体であるだけで、

特別なことでもない。

セッション中に憑依が出てくるというのは、

何らかのメッセージを持っていて、

分かってもらいたいのだろうと、思います。

「あなたはいったい何を訴えたいのよん！」

光の元へ帰りたくてこのクライアントさんにくっついているのか！

ただ単に、いたずらをしたいのか！何にも考えてないのか！

死んだことさえわからないのか！

色々事情はあるだろうけど、一見ネガティブに思えることは、

案外、その人の特質やギフトを知るきっかけになるものだと、私は見ているのです。

また、地上げ屋とは、だいぶ話が逸れちまいやした～。

でも、前回書いたように、地上げ屋という職業って、

突然来られたら、やっぱり困りますよね！

何故なら、今の生活を脅かされるから。

憎むべき存在と言ってもいいかもしれんし、

侵入されそうで怖い存在とも言える。

自分の力のなさを思い知らされる存在ともなり得る。

そんなら、**地上げ屋**と**憑依霊**は、

たいして変わらない存在になるじゃんか！

復習っす！！

①色々事情はあるだろうけど、一見ネガティブに思えることは、
案外その人の特質やギフトを知るきっかけになる。

②**地上げ屋**と**憑依霊**は、
迷惑というレベルではたいして変わらない存在になるじゃんか！

~~~~~

やっぱり思った通りでした。

クライアントさんにとって、何十回のセッションをやっても、  
一番改善したい苦しいところを変えられない理由は  
憑依霊が教えてくれた。  
憑依霊ばかりじゃない。

彼女を守る霊的存在も併せて現れて、  
どうしたらこの問題を解決出来るのかは、  
彼女がそれらの存在にコンタクトをし、  
理解することによって、

即！

解決に向かったのだ。

私がセッションでしたことは、  
ただ質問をしたことだけです。



(私は黒子徹子に徹しておりますねん🎵)

クライアントさんが3年間、毎日苦しんでいた問題は、  
1度のセッションで解決しました。

解決した後の次のセッションでは、また面白いことが起きました。

クライアントさん(自分も言えますね)にとって、  
ずっと違和感があったり<sup>👁️👁️</sup>、  
あつては困るものであったり<sup>👁️👁️</sup>、  
嫌いなところでもあり<sup>👁️👁️</sup>、  
人から指を指されるような<sup>👁️👁️</sup>、  
自分にとってダメだと思っていた所<sup>👁️👁️</sup>に

**宝の山があるのを忘れてはいけません。**

私はそういった宝の山を探すのがすごく得意なんです。

それは、私は小さい時から天の邪鬼(あまのじゃく)的な  
性質があったことから起因しています。

母親には、

「あんたは本当に天の邪鬼なんだから！👊」

って、

「ひねくれている！👊」

「可愛い気がない！👊」

と言われていたのだ。

確かにその通りで間違いないかと思っています。

でも小三の時に交通事故で死んじゃったお爺ちゃんの前でだけは、  
天の邪鬼じゃなかった。

きっと、心の底から私を可愛がってくれていることを知っているから、

天の邪鬼でいる意味が無かったのだと思うのね。

(両親が可愛がってくれていなかったという意味ではありません。)

ただ、お爺ちゃんの前の私は、  
ピカピカ ✨のお姫様 👸だった。

確かに、過去を振り返ると、  
「天の邪鬼」をしていて得をした記憶はまずはなかったねえ。

でも、どうしたって「天の邪鬼」体質は止められない。

みんな全員が…先生を含めて全員が、  
右が正しいと言われても、

左も可能性があるんじゃないかと思って、  
左に行っちゃうことがある。

だいたいうまく行くはずはなかったが、  
それでも左が見たくて仕方ないのだ。

中学生の時は友人から、

「那旺ちゃんのその思想だと、  
いずれは赤軍派か右翼になるんじゃないの！  
あ〜コワ！」

って、言われたことがあったっけ。

確かに右を見ていれば安全なのでしょうが、  
本当にコレには困ったものです。

(おバカさんなのら〜 🤪)

しかし意外にもこの困った性質が、  
セッションでは役に立っていることに気がついたのだ。

「天の邪鬼」=物事を疑ってみる

その性質も、ドンと 📣 突き抜けて 🦶 しまえば…、  
どうってことはないのです。

疑い過ぎて、逆に物事が反転 🔄 して、  
真実 ✨が見えてくるのだ〜〜〜。



(いや～ん、おケツの穴まで見えてきた～)

”陰極まって陽になりました～♂”

反転しちまいやしたどすえ～。

へへ～～い👹長い旅路でした。パチパチ👏



(おっ！ あんさんの魂の性質はですな～🎵)

反転した時に、私にしかできない特徴に、  
やっと気付いたんです。

その人の👉魂の本質👈が、  
見える👁️👁️👁️ことに私は気付いたんです。

その人の魂の本質が見えてくると、  
その人がどこに向かっていきたいのか！  
が見えてきます。

このことについては、またの機会にお話ししましょうね。

~~~~~

3年もの間、悩みを解決し辛くしていたクライアントさんですが、
憑依さんの要望の深いところに、向き合ってみたら、
自分を守っていてくれた守護霊にも
コンタクトすることが出来るようになりました。

もともとエネルギーレベルで、敏感体質なクライアントさんは、
相当に生き辛かったはずで、
それも、開き直って、ドンと構えられるようになると、
これまた陰から陽に変化し、
自分にとってのギフトだったと気づくのです。

2回目のセッションで、
クライアントさんの方向性が見えてきました。
自分には何が出来るのだろうかと何年もの間、模索していたそうですが、
気がついてみると、
あまりにも近すぎて分からないものがギフトなんですね～。

私のもっていた「天の邪鬼」体質の様に、
それを否定していると、
そこから発する光が見えてこないのじゃ～。

だいたい、親や社会から「ダメなもの👊」と
否定されているから、闇に葬ってしまうものです。



(あれまあ、あんさん、そこですかい)

結局、このクライアントさんは
守護霊に助けをもらいつつ、
憑依霊を光に戻してあげることができた。

だけでなく、

それが**自分の得意分野**👍だと気づいたのでした～❤️

それと同時にその人の「魂の本質」のところに近づけるヒーリングが、
自分には出来ると改めて気付いたわけです。

あと、クオーレセラピー・3ヶ月コースの残りのセッションで、
彼女の特質を最大限に生かす為の
個人レッスンをお手伝いする予定です。

彼女の表情はセッションにいらっしゃる度に柔らかくなって行き、
憑依で生き辛くされてきた人が、
憑依霊を浄霊できる人に変わっちゃったわけですから、

それはもう・・すごいありがたいことです❤�

今後のセッションで、
もう少し彼女の持っている潜在的な力を掘り起こし、
皆さんにちゃ～んと提供できる形になるのではないのでしょうか。

彼女がデビューした暁には、ブログでご紹介しましょうね～。
(いい仕事をするだろうな～、と未来が👁️見える)

他にも、可能性を十二分にお持ちで、
待機しているクライアントさんはいらっしゃいます。
順次、この世にデビューすることができたらいいなって思っています。

人間の底力って👆凄いな～。

魂の光ってマブイな～。



(マブチイ。✨💫どんどん産まれるど～)

4章 『ズバリ！地上げ屋を泣かす一番の方策とは？』

だいぶ、テーマとは離れて行きましたね～。

相変わらずのことですが…👉。

そもそも、地上げ屋さんの話から、

なんで憑依体質のクライアントさんの話に飛んで行っちゃったのか!?

というのは……、

地上げ屋さんに対する、

マンションの住人の反応や、物の見方が、

私とはだいぶ違っているのは、いったいどうなんやろか！って、

提起してみたかっただけなのよん。

地上げ屋と憑依霊は、

迷惑というレベルではたいして変わらない存在になるのだろうのう。

そりゃそうだよね、確かに住人さんの気持ちはようわかる。

それにひきかえ、私は「そろそろ、このマンションを出て行っても良い頃だな」

って思っていたんだもんね…。

何故ならば、

ベランダから入ってくる、柔軟剤が臭すぎるから…。

で～、面倒っちがりの私に、誰かちよこつと後押しして欲しいと思っていた矢先の

「出て行って事件」・勃発👊

タイミングよく地上げ屋さんが現れちゃった訳で、

「私ってついてるじゃん！わ～い、その話にのるの。。

出て行く！出て行く！立候補👏」

って、調子こいてしまっていた訳ね。



(ヒヤフオ～！チャンス到来。雨あられ🌧)

でも通常は、そうじゃない人が殆どでしょうから、
事故みたいなわけでももんね～。

「はい！」

すごい迷惑な話だと思います。

そうこうしていると～～、このいっけんで、

住民意識を喚起させてくださっている上の住人から、

ポストにお知らせが入っていた。

住民集会の開催と、その参加・不参加の知らせだった。

地上げ屋にしたら、

個人的に交渉してナンボだから、

みんなで結託されるのは、嫌なものだろう。

とりあえず、仕切ってくださった上の住人の方に私はご挨拶をしに行った。

住人集会というのは、地上げ屋対策として、

みんなで相談し合う集会のようです。

個別交渉したい地上げ屋からしたら壊したいところでしょうが。

挨拶しに行った私に、上の住人は、

上の住人:「どうですか？引っ越すことにあなたは賛成ですか？」

那旺:「はい、特に問題ないですが…。
皆さんどのような様子でしょうか？」

上の住人:「実は僕はまだ地上げ屋には会っていないんです。
明後日、会う約束になっていて、
その前に集会をしたいと思っています。
でも、聞いたところによると、
サインしてしまった人は特にですが、
地上げ屋に大阪弁でまくしたてられて、
怖くてサインするしか仕方なかったと聞いています。

妻も怖かったって言っていました。
あなたは、すでに会ったのですか？
どんな印象でしたか？」

那旺:「ええ、来ましたよ～。確かに、今日判子をついてくれたら、
特別な措置をするって言っていましたよ。

私はそういうやり方は、ヤクザ屋さんがすることやろ？
あなた、ヤクザさんをやっている人？
それって勘違いされるからダメね！…。って。
だから、もっと落ち着いて頂戴ね！って伝えましたら、

そうしたら、『ごもつともです。出直してきます』って、
素直に帰りましたよ。
大阪弁で愛想よくって、とっても面白い人でした…

漫才師の横山やすしみたいで、
話していて、おかしくて笑っぱなしでね。
私も調子に乗って、おちよくり過ぎたかなあ💜💜

そりゃ、こんな仕事に従事しているから、
腹の中は海千山千かもしれないけど、
そんなに悪い人には見えなかったけどなあ…。
同じ人のはずですよ？
担当は〇〇っていう名前の人ですから」

上の住人:「僕はあなたみたいな人に出会ったことはありません。
なんでそんなに落ち着いているんですか？
こんなストレスなことを楽しんでいるようにも見える。
みんな怖がっているのに、冗談を言っているなんて・・・。

なんだか良くわからなくなってきました。
僕はあなたみたいな人になりたいです。」

って感じで、
これは褒められていると思っていいのか・・・、
よくわかんないけど、

上の住人は、
何か得体の知れないものを見るような目で私を見たのは確かだった。
きっと、真面目な人なのだろう。



(真面目。あぜん。でしゅ～)

そうこうしていると、
上の住人の隣人の主婦が出てきて、話に参加した。
契約書に印鑑を押してしまって、
この契約を却下できるかどうか、
弁護士に相談に行くといっているのはこの人でした。

話しているだけで、
何気に興奮しているのか小刻みに震えている様子。
印を押してしまったことにストレスを感じているのだろう。(多分)

那旺:「そんな契約は破棄できるから、大丈夫なはずですよ」

つと私は一応教えてあげた。

その主婦もなんで私がそんなに落ち着いているのか・・・、

主婦:「不思議なパワーをお持ちの方なんですね？
なんだか悩んでいる方が変みたいな気持ちになってきました。」

って、言われてしまった。

私は、ただ、普通のことをフツーに話しているのに。。



それから2ヶ月くらいして、

私も地上げ屋と交渉しなくてはならない時期になりました。

住人の皆さんは、そろそろ契約し終わった頃でしょう。

周りの雰囲気から察して、

私は、多分最後だろうと思います。

ていうか、

私はその時期を最初から狙っていました。👉👈

地上げ屋からは、「連絡をくださ～～い」

と書かれた名刺が3回も玄関のポストに投入されていた。

けれど、連絡せずに放ったらかしにしていたら、

携帯のショートメールに数回、

「連絡ください。お願いします」

のメッセージが何度も入るようになった。

私的にはなんだかわかんないけど、

スグに連絡しない方がいい気がしてたんです(へへへ👉👈)

あと、本当に忙しすぎて、

優先順位がずっとあとの問題だったから、

放置したかったのだと思います。

それに、

これからどんな話し合いになるのかと想像すると、

も～う楽しくなっちゃって、

楽しみは後に延ばしておきたい気もしていた。

(大人を遊んじゃいけませぬが)

ショートケーキのイチゴは最後に食べる方です。

後になって分かったことだが、

地上げ屋を泣かす一番の方策は、

「連絡が取れないこと📞」だと、

いい加減ビビった地上げ屋さんが

親切にも教えてくれたよ～。



(地上げ屋ちゃん、にやかしてしまったわい)

お～、私って、

知らぬ間に地上げ屋さんのことを(愛しすぎて??❤)

先制攻撃していたんじゃない。

泣かしちましまして、きゃ～～

そんなこんなの得策で私の場合は、

住人の中では交渉が最後になっているはずですよ。

地上げ屋さんと交渉する前に上の住人のところへ行って、

どんな交渉を成立させたのか様子を聞いておこうと👤

あの真面目で誠実な上の住人が教えてくれたことは、

集会で住人が団結する話は、結局うやむやになったようだ。

日頃、交流が全くない者ばかりなので、

団結するのは難しいだろうと思ったけど、

地上げ屋の方が一枚上手で、
個人的にうまく取りなして個人交渉を進ませたのだろうと！

上の住人:「私の場合は、佐川急便に引越しの見積もりを出して貰い、
クーラーの取り付け費3台分とか、細かく算出したモノを地上げ屋に出したら、
すぐに合意しました。
自分としてはここしか取れるところがないと思ったから、
結構多めに申告したのに意外にもすんなり成立しましたよ。」

那旺:「そうでしたか。

ちなみに引越し費用はいかほど請求したんですか？」

上の住人:「契約した時点で、
一切他言しないという約束なので、それは言えません。」

なるほどね～。

引越し費用なんて、
どう多く見積もっても20万も行かないだろうに・・・、

なんで引越し費用だけに、
上の住人が固執したのか、私は不思議でならない。
お金をより多く取る為にはどうしたらいいのかを優先させすぎて、
その方法が引越し費用でしか取れないと思い込んでいるみたい。

取ろう取ろうと思うと、
気が焦って大きなものが見えて来ない。
すると、選択肢が限られてくる。
私がセッションをやっていて常に感じることは、

クライアントさんの作っている悩みは、
選択肢がまだ他にもあるにもかかわらず、
見えてない＝ないものとして生きている状態にあります。

悩んでいるせいで、筋肉を硬直させ、
かといって首にも腰にも力の入らない状態。
で、自分を小さくさせているから、
宇宙からのアイデアが入って来ないのだ。
私から見たら、上の住人も緊張のあまりに自分から白旗振っている感じがした。

やっぱり推察した通り、ちゃんと👍真面目な方みたいだ。
どうせ、出て行くと決めているなら、
もっとやり取りを遊んじゃえばいいのに。

…っと思いつつも、この親切な住人の今後の人生を祝福
して(もちろん心の中ですよ～)、帰りました。(一階下に)

まだ、一人しか情報は収集していないが、これで十分なネタだと思った。



数日後…。

ピンポ～ん。

おっ！時間🕒ぴったし。

地上げ屋さん、営業マンみたいにやる気満々だあね。

「わ～い、大阪人🎵大阪人🎵

ヤクザ屋しゃ～～ん🎵

おととととと・・・ヤクザやじ～やなくて。

地上げ屋さん🎵地上げ屋さん🎵

どうやって遊んで貰おっかな～。」



(はい、これから第1ラウンド。チ～ん👉)

5章 『吉本興業のナイナイと同期だった地上げ屋さん』

地上げ屋さん:「こんばんは～。

あ～やっと来ましたわ～👉👉」

と、

地上げ屋ツチが玄関に入った途端、

ぎょっとした顔👉👉をして半歩引き下がった。

地上げ屋ツチをきょっとさせた原因は、玄関に脱いであった男物の靴を見た時のリアクションでした。

なんてわかりやすい人なのでしょう。

その反応に大満足し、

いたずら好きの私からしたらご馳走すぎて、

どンドン突っ込みたくなっちゃいました～。

きゃ～、ヤッフオ～💕



(地上げ屋っち💕 大絶賛で万歳三唱)

だから大阪人って、分かりやすくて好き！

(勝手な決めつけですが)

そういえばかつて「大阪人が大嫌い・憎くしょうがない」をテーマにして

セッションをしたことがあるな～。

ほんまに人生って、いろいろだす。

地上げ屋さん:「あの～、

もしかして～👞この靴、👩弁護士さんでっか？

弁護士、呼んでるのん？」

那旺:「あっ～、まあね👩

そんなに気にしなくて大丈夫よ。

ちょっと遊びに来ただけだから。

さっ、どうぞ～上がって、上がって」

呼吸を整えるようにした地上げ屋ッちは、

地上げ屋さん:「えっ、いいんですか～？上がっても👩。

ここのマンションに交渉に来てからというもの、

上にあげてもらえたのって、

お宅さんが初めてですわ～。びっくりです。

ありがとうございます。

ほな遠慮なく、スンマセン。お邪魔致しますう」

私が用意したことになった弁護士を見て、

地上げ屋ッチは落ち着きを取り戻して丁寧に挨拶した。

地上げ屋さん:「よろしくお手柔らかにお願いしますう」

ちゅうか、地上げ屋ッチは、

私の友達を勝手に弁護士だと勘違いしているので、

特にそうだとも、違うとも言わなかっただけです。

(気持ち、いたずらだい💕💕)

那旺:「どう？交渉はうまく進んでいるの？」

地上げ屋さん:「はい、おかげさんで。

私の担当ではお宅さんが最後になりましたんや。

他の担当の者もいるのですが、

彼の担当で一人だけ交渉決裂の人がいるのです。

その人、どうかしてますよ、ホント。

ありえへん金額を要求してきて、この際いくらでも取ってやる！

ってな態度で、1階の単身の人やけど・・・、

なんですかねえ、あの人えげつないですわ～。

全く話になりまへんのや。

あそこまでいってまうと、交渉しても解決はまず無理です。

あとは弁護士に解決してもらうしかないでしょうね。

それにしても・・・、ここでの仕事はお金になりませんわ～。

全然儲けがありません。」

那旺:「どうして？」

地上げ屋さん:「やっぱりそれなりの地域性ってもんじゃないでしょうかね。

皆さん法律も知っているし、知的レベルが高いから、

なんやかんや言ってきて難しいですよ～。

もう、ここでは儲けることは諦めましたわ～。」

那旺:「で、私が最後の交渉相手ね。

最後に優しい人でよかった！って思っているんでしょ？」

地上げ屋さん:「いえいえ、お宅さんは難関ですわ。

この道30年やってきて、直感なんです、

イヤ～な予感がしております。

なんでお宅さんの順番が最後になったか、

なんとなくわかる気がします。

あなたを見ていると、なんだかようわからなくなるんです。

苦手っていうか・・・、なんですかねえ。

ていうか、ホント、難しい人の交渉は最後に残しているんです。」

那旺:「それって1階の頭のおかしい強欲な人と同じみたい・・・っていう意味？」

地上げ屋さん:「いえいえ、お宅さんは別物です。

きちんとされたお方です。

こうやって見ると、お部屋も丁寧に扱っているじゃないですか。

1階の人とは全然違います。

ちやいます・ちやいます👏。

一階のああいうタイプの人っちゃうのは、

性根が悪いもんで、しゃあないんですわ～。

どこにでもいるんですね。あの手のタイプは。

だから私たち地上げ屋はそんなに気にしてまへんのや。

そりゃ気分は良くないですけどね。

めちゃくちゃですからね、…言っていることが…。」

那旺:「ふ～ん、そっか～。面倒くさい仕事をやってんだね？

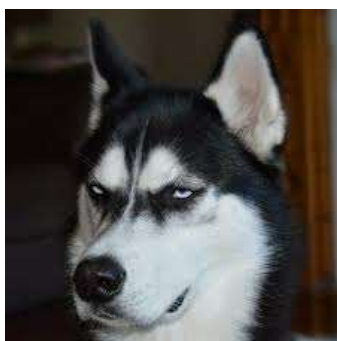
長い間よく続いているねえ。すごいね。

ところでさ～、バブルの時の地上げ屋さんって、

すごく儲かったんでしょ？

あの時代はものの弾みで悪技なことをやって、

人の一人や二人は死んじゃったりしたんじゃないの？」



(いい奴なのに、一生懸命に悪技がお)

地上げ屋さん:「いえいえとんでも無い事ですう。

やめてくださいよ、冗談言うのは。

こう見えてもそんなに悪い人間じゃ無いですよ。

あの時代はねえ、よかったなあ。

(回想シーン)

ガッポガッポと儲かりすぎてね、
高級クラブで酒を毎日飲みまくりまして～、
だから膀胱がやられちゃって💩、
もしかして来週出る検査結果次第では、
わたし…入院になる予定ですわ。

もう膀胱はクタクタみたいです、
毎晩飲みすぎて。
あの頃は、仕事も遊びも忙しくて大変でしたわ～。
でも、よく考えてみるとなんもなんも残った感じがなくて…、
だからバブルなんやね👉お金とか権力に溺れると虚しいですねえ。

(昔を回想する地上げ屋ツチのカールしたまつ毛が可愛い👉👉)

地上げ屋の仲間にもひどいことをする奴もおりましたけどね。
私はこう見えて…、それほどヤバイことはしてまへんのや～。
つまんないじゃないですか～、
人を陥れてお金👛を儲けたって、気持ち良くないですからね～。」

那旺:「いつから改心したのよ」

地上げ屋さん:「そうね～改心ねえ。したねえ～。
父親が死んだ10年前からですわ～。
なんだか急にちゃんとしなきゃいけない気がして、
親父に誓ったんです。
これからは性根を入れて生きてますって。
こう見えても私には子供3人と奥さんと、残された母親がいますからね。
いつの間に、なんでこんなこと話しているんだ??」

那旺:「親って、失ってみて初めて気づくものだよね、

ありがたいって💧。

それにしてもなんでこの職業を選んだの？

例えば証券会社とかに就職したら、地上げ屋さんの実力じゃ、

結構いい成績上げていたんじゃないの？」

地上げ屋さん:「なんでっしょらうね〜。

あの時は勉強より仕事していた方が楽しかったからじゃないんですか？

私は17歳でこの仕事に入って、もうかれこれ30年ですからねえ。

そんなぁ・・、証券会社とかは選べませんわ。

だって中卒ですよ私は。

でも、まともに勉強していたら、結構東大なんかに入れたと思うんです。」

那旺:「うん、おせじ抜きで私もそう思うよ👍話していて賢いって思うもん。

ところでさ〜、今持っているジュラルミンケース、

なんでそんなに小っこくて薄っぺらなの？

地上げ屋が持っているジュラルミンケースは大きくないと、

億の単位のお金が入らへんでしょ？」

地上げ屋さん:「まあ、今日のケースは小さい方ね。

でも、1日の交渉で5億入れたこともありませ〜。

そういえば、あの有名なチェーン店の飲み屋〇〇って、本当にヤバイですよ。

完全にヤクザです。金取りですわぁ。あんなところに飲みにいっちゃ、いけません。

裏を見たら、ホンマにえげつないですわ〜。

あそこの交渉はかなり危なかった👊」

那旺:「ふ～ん、そうなんだ～。いろんな経験しているんやね。

そういえば、地上げ屋さんってさ～、お笑いのセンスもめっちゃあるじゃない？

大阪なんだから、吉本興業に入ればよかったのに。

一度はお笑いの世界に入ろうとは思わなかったの？

絶対、人気者になったと思うんだ。目はそんなに大きくないし醤油顔だけど、

まつ毛がクルリンとカールしていて可愛いじゃない？」

地上げ屋さん:「さすが・・・お宅さん、わかりますう？

実はね、私はですね・・・吉本興業に友人と組んで入ったことがあるんですわ～。

ちゃ～んと履歴書も出したしね。あの時代の同期はナイナイでして・・・。

でもねえ～、私たちはそこそこはいけたかもしれへんけど、

どんなに頑張ってもあの人たちまではいきませんでしたでしょうね。

やっぱり凄いですよ彼らは。はい、そんなもんですわ～

.....(間が空く)

あら～、なんでこんなことまで私は喋っているんやろか。

あんさん、聞き方がお上手ですねえ。

つい真顔で本音を喋ってまう。

あ～この人、こわ。もう勘弁してください。

気をつけな～あかんわな～。危な危な！。

いつの間に、心の中を丸裸にされてしまう感じですう」

那旺:「何もせ～へんから・・・大丈夫やで～。

へ～～、人生いろいろなんやね～。ありがとね～

お父はん、ちゃ～んと喜んでくれはってるわ。

よくやってくれとるってさ。。」

地上げ屋さん:「え～、え～、ぐっえ～～～～～???

(ごっくんと唾を飲み込む💧)

まさか、ソレって…わかるんでっか??」

(まつげくるりん目が愛おしいワン)

那旺:「……………(微笑むだけ)」

地上げ屋さん:「あ～あきまへんわ。

またお客さんのペースにはまるところやったわ。

何やってるんやろ、わたし💧

はあ?何もせ～へんって???.

そりゃ、わかりますが…、こう見えても私は地上げ屋でっせ。

何かして帰らな仕事にならないんですわ～。

幼稚園のお使いじゃありまへんからなあ」

那旺:「あら、ホントだ! そんじゃあ、やってやって!

待ちました～!! パチパチ、オカツパチ～」

地上げ屋さん:「ホント、変わったお人やなあ～。訳わかりまへんわ。

アタマオカシクナツテクル。また知らない間にペースにはまってるわ。

こう見えても私はですね～この道30年のベテランなんですからね、

ホンマに～。なんかバカにされているみたいで、汗かきますわ～」

那旺:「汗といえはさ～、変なものあるんよ、うちに。

炭酸なんだけど、菌なのよ。お金の金(キン)じゃなくて、菌の菌。酵母菌。

飲ませてあげる。発酵しすぎるとアルコールになっちゃうんだよ。

ね～、美味しいよね、これ🍷」

っと、今までこの会話に一度も参加できていない

弁護士と勘違いされている友人 H 君にわたしは同意を促した。

彼が喋ったらどうせ身分はバレるだろう。

余計なことを喋るし、馬鹿正直だから・・・。

それにしてもあんまりおちよくと、地上げ屋さんが可哀想だからね。



(はい、おひとつ、どうぞ～)

H 君:「これ、美味しいでっせ～(と、これまた関西弁)

さっぱりしますからねえ。」

地上げ屋さん:「あ～、弁護士さんも関西の方なんですか？

も～スゴ。ホント、安心するな～。

実はわたし、東京の人は苦手ですよのや～。

関西弁でしゃべるだけで、受け入れてくれない雰囲気を出されますからねえ・・・。

ワッ！このオレンジの炭酸、結構キツイおますなあ。

でも、美味しいですう。ありがとうございました～」

H 君:「確かにキツイですわな～。よお、わかりますう👍

(炭酸がキツイのか東京人の態度がキツイのか、

H 君の会話はだいたいわかりまへん)

ここにいる人・・・、那旺さんってホンマに怖いっすよ～。

私も二人の会話を聞いていてだんだん怖くなってきました」


那旺:「や～だ、H君、誰の味方をしに来たのよ～。

地上げ屋さん！この人、10年来のお友達でね、とってもいい人なのよ。

今日も心配してきてくれたの。ただ、居るだけなんだけどね。」

H君の喋り口調で察知した地上げ屋ツチ。

「こいつは弁護士じゃないな・・・」

つと、直ぐに見抜いた地上げ屋の目を見て、

「やっぱりやるな～お主」つと。。

この大阪人、洞察力はかなりある。

クルリンまつげの動きで、彼の頭の中が私にはわかる気がした。

地上げ屋ツチの頭の中は3次元的な洞察みたいだが・・・やっぱりプロだなあ。

って、なんとなく思ったわけで・・・。

地上げ屋さん:「そろそろどうでっしゃるか。本題に入りまひよか？

はっきり言ってくれまへんか？

おいくらになりますかね～。

ここをお引越される費用なんですけど・・・」

つと、自分のペースを取り戻したかのように地上げ屋は話す。

まるで、娘の彼氏が「お嬢さんを嫁にください！」つと、

やっと言えた瞬間みたいな・・・、

ちょっとバツが悪くって、かといって応援したくなるような気持ちになる。

(ちなみに私には娘はいないです)

那旺:「地上げさんの言ってる意味がよくわからへんわ～。

私にちゃんとわかるように、説明してねん。

(また悪趣味が私をプッシュする)」

地上げ屋さん:「お宅さん、こんなこと言って、ホント、

申し訳ないんのは重々承知です。

急な話なんですが～…

10月までに出て行ってくれはるお気持ちはありますん？」

那旺:「だって～、嫌だって言って一人だけ残ったら、

最終的にはブルドーザーに敷かれてドドドど～で、ギュギュとぺったんこになって、

私、死んじゃうんだよね？まだ、もうちっと生きてみたい。」



(大人をからかっているお茶目なオラだす)

地上げ屋さん:「もう、冗談はやめてくださいよ。

そんなこと出来るわけがないじゃないですのん。今のこの時代。

居住権って～奴があって、その法律は私たちからした手強いんですわ。

変なことしたら、スグに捕まっておまんま喰いあげでっせ、わてらの商売。」

那旺:「そうなんだ～。ああ～～、よかった🐾🐾

命拾いした～～(ほっ💖!)」

馬鹿正直な H 君は、きっと私のこういう会話が怖いんだろう。

だって、私の本心は、ここを出るのには全く抵抗はないし、

むしろ望んでいることを H 君は知っているからだ。

じゃじゃじゃん。そうなんです。

それどころか、私は、別にお金が欲しいわけでもない。

どうせ、近々出ようと思っていたけど、なかなか踏ん切りがつかなかっただけで、

そんな私に、家賃6ヶ月分は払わなくて良いと言われ、敷金2ヶ月分も返金してくれて、

さらに引越し費用まで出すだと。。

何～～も頼みもしないのに、

勝手に地上げ屋さんが、すまなそうな顔🙇をして、申し出てくれているのだ。

大阪人だから、すまなそうな表現もすご～いうまいの。

ホント、すごくすまなそうにするの🙇。



(うまい！コップかぶってすまないお顔)

そんなされると、私はどうしても突っ込みを入れたくなくなってしまうのだ。

だって、現場的には吉本新喜劇と同じなのよ。

もう、わくわくミーハー状態です。で、私、決めたんです。

この地上げ屋さんは、宇宙がよこしてくれた「お金の神様～🙇」

なんだと、思うことに決めたのだ。

神様なのだけど、ふつーに対等なのね。

でも、ありがたい人が現れたことには変わらないから、

大切にお招きしようと思うんです。

地上げ屋さん:「で、引越し費用というか退去費用というか、

お詫び費用というか～、いかほどで手を打ちたいと思ってくれはりますのん？

私は、はっきり言って、お宅さんのことはようわからんですわ。

30年やってきて、色々な人を見てきましたが、

お宅さんに関しては、普通の人とも思えないし、

もうまともに争えないのもようわかったし～。

ですから、言いたいことがあったら私、考えますから、なんでも言ってください👉」

と、語尾を上げながら、桂三枝師匠風に真剣に喋っている。



(ところであんさんどないしますのん?)

やっぱり、大阪弁はいいな。

人の気持ちに沿ったかの様に聞こえるもんね。

中身は全然伴っていなかったとしても。

映像の中に入りこんでいる感じがたまらん。

那旺:「う〜〜ん、よくわかんないな〜。

本当に私って何にも考えてないのね。

かといって考えても、何にもアイデアは出てこない。

じえんじえんわかんない。頭がおバカさんになつとる感じだよ。」

私の心の中では、これで十分過ぎる位の対応をしてくれているに、

引っ越したい！って先につぶやいたのは、

(地上げ屋じゃなくて相手は宇宙にだけどね)

私の方なんだけどなあ〜。

そんなにすまなそうに言われても、困るんだよな〜、

地上げ屋神様ったら・・・。

も〜、す・て・き💕

(と、妄想中のラブコール)

地上げ屋さん:「そんならようわかりました〜。

今日のところは帰りますわ〜。次回まで少し考えといてください。

本当は今、ちゃ〜んと決めて帰りたいんやけど、

明日も九州まで行かなあかんし、

次は関西地方やし・・・、

はよ決めたいのは山々なんですけど、お宅さんと話している私も・・・、

だんだん頭がこんがらかってきて、変になりそうなので、

今日は帰らせて貰いますわ〜。

地上げ屋がお客に背を向けて尻尾巻いて帰ったなんて、

そんな不名誉なこと、誰にも言わといてくださいな。

(ここでも地上げ屋ツチはシーのホーズをしとる)

ほんま、地上げ屋なのに恥ずかしいわ。

なんなんやろか。

この人。さっぱり、よ〜わからん。わからん。

も〜ほんま…え〜わ。👉👈」

と頭をかきかきして…👉



(わからんしっぽ巻きポーズでしゅ)

「次回まで考えておいてください」なんて言われても、

「これで十分です」って言っちゃっても良いものなのか…、

とりあえず、次回にまた神様と遊べるんだな！

ってだけ思っておこう。

わ〜い。

お金の神様、ほんならさようなら〜。

6章 『お金の神様との会話』

その後、1ヶ月が経ち、第2回目の神様との交渉が始まった。

これから地上げ屋つちのことはお金の神様と呼ぶことにする。

前回同様に、

交渉前の雑談はかなり面白いネタを話しまくったはずなのだが、

何故だか私の記憶からは消えてもうた。

お金の神様:「どうでっか？金額、決まりましたか？」



(とりあえず、人の良さそうな顔を見せている地上げ屋＝神様)

那旺:「前も言ったけどさあ、1ヶ月経っても、

そもそも初めっからわからないって言ったよね？

何も考えられないものは、考えられないのだ！」

お金の神様:「豊岡さん、こう思ってくださいよ～。

私がお宅さんとの交渉を最後に残したのは、

確かにお宅さんの交渉は難儀しそうと

思ったからなんやけど・・・、でもね、ここだけの話やけど、

最後に残したなりの理由がありますねん。

というのはですね～、先に交渉した人たちは、

なるべく少ない金額で収まるようにして、

最後にお金の余裕を持たせたかったんですう。

最後になるお宅さんになるべく多い金額を取っていただきたいと思いました。

そうしたいんです。ですから遠慮なく言ってください。」

那旺:「ふ～ん、ホント??怪しいな～?

また上手いこと言って、善意を見せときながら、

心の隙をつくつもりやないの?

女房と子供3人と母親を養っているとか、

好印象なことを言っとるけどさ、

本業はヤクザな生き方をしているんじゃないの～?」

お金の神様:「よしてくださいよ～。

私は本当に真面目な人間なんです、今は。。。

で、ですねえ～、なんでもいいからお宅さんの考えを教えて欲しいんです。

なるべく誠意にお応えしますから。

わたしは早くこの交渉を終わらせたいもので。

例えば、こんなにいい環境のところに住んでいらっしやったのに、

住み慣れたお気に入りの場所を突然、訳の分からない奴が来て、

「出て行ってくれ」なんて言われたら、辛いですよねえ?

私はその気持ちがよ～くわかるもので、

その辛さに私がお詫びとして応えるには、

お金でしか表せられないじゃないですか。

それに、引っ越すとすると、いろんな手間や、経費が掛かりますやろ?

新しい住処を探すのも大変でしょうし、

役所やパソコンの整備とか諸々の手続き、時間的負担はかなり多いかと思います。

本当にお気の毒だと思っているもので・・

心の負担も含めてお金に換算して欲しいんです。遠慮しないでください。」

那旺:「マジですか？本当にいいの？」

っと、そう言われて、純粋な気持ちで、損害金額をシュミレーションしてみた。

もし、上の人の柔軟剤の臭さが無かったとしたらどうやろか？

私はこのお気に入りの住居を出ようとは思っていなかったらう。

だから上の階の柔軟剤攻撃のストレスを、

全く考慮に入れないで計算してみると、

ありやまあ、とっても悲しいことではあ～りませんか！

そっか、この負担と悲しみをお金というエネルギーで換算する訳ね！

で、私は体に聞いてみたのだ。

体の感覚をよ～く感じてみた後に、セルフでキネシオロジーをしてみた。

で、換算するといくらになるのか確認したのだ。

そうしたら、自分が想像していた金額より遥かに高額が出てしまったわい！



(キネシさん・随分無理強いするもんだのう)

あれれれれ??

そっそそんな～、キネシオロジーで聞き直してみたが、
何度やっても同じ金額だった。

お金の神様:「どうでっか？お決まりになりましたやろか？」

那旺:「へへへ～い。絶対に言えへん。

だって地上げ屋さんが思っている

金額とだいぶちやうもん。だから、言えへん」



(絶対に言えへんからなあ、みんな・・・)

お金の神様:「エエ??私の考えている金額がいくらわかるんでっしやろか？」

わたし的にはかなり、お宅さんが満足いく金額を準備しておるんですが・・・」

那旺:「うん、だいぶちやうみたいよ。

だって地上げ屋さんの頭の上に金額💰が書いているからわかるもん。

私だって、そんな強欲したいわけじゃないけど、

キネシオロジーがいうからさ～、

なんか頭のおかしい無責任野郎と思われてもしやないけど。

地上げ屋さんが、金額を出せ出せっていうから、

キネシで聞いたまでのこと。。」

7章 『キネシオロジーは、超役に立つじょ～』

は～い。わかったじょ～



(わて、お手で大事なところを隠しながら足でハイしちゃった～。)

上の階の家の過剰な柔軟剤によって、私はスッカリふてくされちゃって、

「この家を出て行く！」ってブータレたけど・・・、

その問題(私にしちゃあ死活問題なんよ)を全く考慮しないとして～、

この突然勃発した引越し要求を、まるで災難が起こったかのように、

無理くり被害者になりすますとすると、私にとっての精神的・物理的な負担は、

お金というエネルギーでもって換算したら📱おいくら？・・・ちゅうことやんか！

それがお金の神様(地上げ屋さん)の言っている引越し費用だったんだ～。

佐川急便より日通の方が見積もりが高いとか、

「高額な、らくらくパックで請求したろ！」

・・・なんちゅうレベルの話じゃなかったのよね。

先ずは私の時給からすると、時間的負担額はおいくらになるんだっけ？

なるほど・・・、パチパチ💰っと珠算・簿記1級もとうの昔の実力となるが、

(今はおバカさんです)

そう思うと妄想は次々に膨らむ。



(お鼻がだんだん膨らんできた。フガフガ🐮)

精神的・物理的負担をお金💰に換算か～。

っと、ふと寄り道ながらも頭に浮かんだのは、

「うちの息子夫婦はどれだけの莫大なエネルギーを私から財産分与されているんじゃ？」

っと、勝手に想像して、ブツサ言いたくなるのは、私のささやかな愚痴でございます。

愚痴って・・・スンマセン。

親業には終わりがなくて、私にとっちゃ大変なんじゃ。

ちゃんとやって当たり前で、やらないと文句をタレられるところってあるじゃん？

ありゃまあ、いけませんわ。こんな話になる予定では御座らんした。

~~~~~

話を戻して～と、結局、前回のお話で、私はこの住居を出て行くことに関して、

慰謝料が欲しいとはどうしても思えなく、

それどころか、お金の神様には感謝している位なのだ。

だから「負のエネルギー」を計算するなんて、なにがしの検定試験みたいなもので・・・、

だいぶ昔に税理士試験で財務諸表論を学んだけどさ、

これじゃあ頭パーポー白紙提出になっちゃうじゃん。

だども、ここでチャ～ンス🏃

こんな時に使えるのが、**キネシオロジー** ✨ 筋肉さんに聞いてみれば良いじゃん。



(あん、いや〜ん❤️ 筋肉丸出しんこ・悶えのポーズ🐶)

で、で、で〜、私は筋肉さんにこんな質問をしてみた。

1.)「今、私が必要としているお金はいくらになりますか？」

と、筋肉を媒体にして潜在意識に教えて貰ったのだ。

キネシオロジーってある意味いい加減だと思うのは、

その人の質問や意図によって、答えが大幅に変わってくるのね。

例えば、こんな質問だったらどんな金額になっただろうか？

2.)「今回のことで私が感じた損失度を金額に換算したらいくら？」

とか、

3.)「このマンションにおいて、引越し費用として妥当な金額はいくら？」

とか、

4.)「お金の神様が出しそうな金額はマックスいかほど？」

と聞いたら、それぞれ値は違っただろう。

私が尋ねたのは、1.)のみです。

それが意外にも金額が予想以上に大きかったので、自分でもびっくりしたのだ。

お金の神様:「キネシ??????」

なんですか、それ? 占いでっしょろか?

それはそれとして、引越し費用の金額を教えてください

と言われて、

那旺:「キネシオロジーって言葉、まだ聞いたことないんだね〜。

それでは今からキネシオロジーの講習をしましょう。

地上げ屋さん、ちょっと立ってみて!

でね、こうやって、腕を2本平行にあげてみてから〜、

私がこの腕を下に下げるけど、この腕が下がらないように、

私と同じくらいの力で保っていてね。

無理くり力を入れなくていいのよ。力相撲🥊じゃないんだから。

そうそう、そんな感じの力ね!

そうしたら、今から自分の好きなものや楽しいことを想像してみて!」

お金の神様:「ほんなら、今夜飲む晩酌のことを考えますわ〜🎵」



(あ〜今夜の客はしぶとかった。まじ辛いわ〜、っと地上げ屋風神様👉)

神様の腕を押してみる。

那旺:「ほら、こんなにしっかり力👉が入っているのがわかるよね？」

お金の神様:「はい、しっかりしています。なんとなくやけど・・・」

那旺:「じゃあ、今度は自分にとって辛いことや嫌なこと👈を思い出すってできますか？」

お金の神様:「ん～、明日行く仕事のことやろか・・・」

那旺:「そのことを思い浮かべてね。

押すよ～。

今からまた同じ力で腕を下に押すからね。

👈ほら見て、私が殆ど力を入れないのに腕が落ちたでしょ？

これがキネシオロジーなの。

自分に力を与えてくれるものや、ポジティブな思いや感情👉には、

バリッと力が👉みなぎるわけ。

でも、今は力が入らなかったよね？

それは、明日の仕事が嫌な👈ことだったから、

腕は軽く落ち👈ちゃったでしょ？

地上げ屋さんの筋肉が正常に反応している証拠なのよ。

これでわかった？」

お金の神様:「確かにびっくりやけど👉」

でも、お宅さんが最初は強く押して、次は弱くしたんじゃないん？」



那旺:「じゃあ、わかった。違うやり方で説明しようね。

次はオーリングで検査しましょう」

.....

私はパワー波動ナッツを出してきて、

ナッツを食べる前と食べた後をオーリングという方法で試してみた。

オーリングのやり方は、

被験者に人差し指と親指をくっつけてリングの●形を作ってもらい、

やる側(私)がリングの形になった指を引っ張ってリングを開ける。

それによって力加減を見ていくのだ。



で、実験結果は、

パワー波動ナッツを食べる前と、ナッツを口に入れた後のリングの力の入り具合を比較すると、

パワー波動ナッツを食べた後は、リングの指が強くて開かなかった。

お金の神様:「なんだか騙されている感じもしますが、

力を殆ど入れていないのに、ナッツを食べた後は指がしっかりしているんやなあ。

ほんま、何をされているのか、こりやわかりまへんわ。」

那旺:「へへへ～。この波動ナッツ、あげるから大阪に帰ったら

同じように子供に試してあげて。

お子さん、びっくり喜ぶと思うよ💕」



(ほら、こうやって手を押すんだよん👊)

ってな調子で、キネシオロジーの実験をする度に、「うお〜うお〜っ👤」と、目を白黒👁️させていた地上げ屋神様だったが、



(ワケワカンないことしおる👁️この人👉)

お金の神様は、この後やっと我に返って、仕事を早く終わらせないと、神様の一番のお楽しみである晩酌🍶に間に合わないと思ったのか、気持ちを入れ替えて、話を引越し費用に戻した。

お金の神様:「お宅さんが占いみたいなもので、引越し費用を調べはったのは、それとなくわかりました。では、現実のところ、金額💰を教えてください〜〜い。」

ありやりやりや・・・だから〜〜、

「キネシオロジーは占いじゃない！」ちゆう事を教えてあげたかったから、

こんなに親切丁寧に講習会を開いたのに、

も～～～神様ったら・・・ダメじゃこりゃ🙄

キネシオロジーの力を借りて、なに一つひるむこともなく、

罪悪感もなく、当たり前かのように、予想外の金額を言えちゃいました。

那旺:「では、思い切って、……………びっくりしないでね。

正解は、じゃじゃジャ～ン👛〇〇万円だよ」

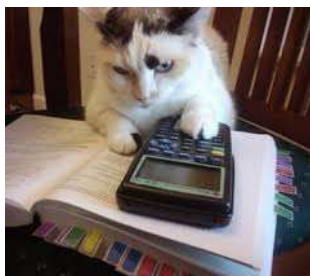
お金の神様:「あっ💧あっ💧あ～そうですか🙄」。

(汗)確かに自分の用意した金額とはちょっと違っていました。

でも、どう考えても他の人とのバランスが……

金額の差が・・・違い過ぎませ～。

それは難儀なことです。ちょっと待ってくださいね～」



(大阪商人かに見える凛々しい電卓姿)

って言って、お金の神様は、汗を拭き拭き💧電卓をポチポチ👉と押し出した。

お金の神様:「正直言いますとですね～、イエ、私は絶対に嘘をついてませんからね。

何故ならどうせバレるし🙄嘘をつくって結構大変なんですわ～。ホント。。

(やけに言い訳をしているのが、かわゆい)

今、お宅さんが交渉の最後の人だというのは知ってますよね？

で、このマンションで一番金額が高かった人は、こんな金額です。

(と電卓に金額を入れてみせる神様)

ですからですね～、

どんなに私が頑張ってみても、こんなところですよ。(📱ポチポチ🎵)

(金額を訂正してみせる神様)

ホント、ここの仕事は利益は出ませんわ。

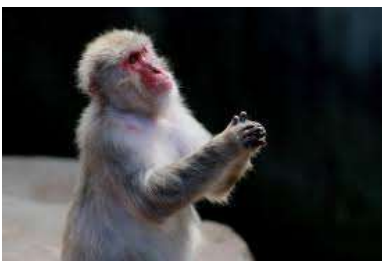
もう、ホント…諦めました🙏

(前も同じことを言っていたなあと客観視する私)」

ここで、久しぶりに弁護士を装った、

というかとっくにバレている友人H君が思わず会話に参加してきた。

弁護士風H君:「わかりました。はい、その金額で手を打ちましょう👏」



(パチパチと手を叩く野次馬くん)

あれれれ??

今までずう～っと黙っていたくせに、

部外者のあんさんが何でこの大事な場面で決断するん??

っと、私もお金の神様もその言葉を聞いて、一瞬シーン👁️👁️👁️となった。

でも、H君とは10年来の親友なもので、私は「またやられた～」と思いつつも、  
彼が大事なところでの違いな発言をするのは慣れている。

H君は真面目だから、私のやり取りにはもういっぱいばいばいで付いて来れないのだ。

今、お金の神様なりの誠意ある対応してくれたことに、

勝手に満足したH君は、

「もう、この金額で十分だ！」

と思い込んでつい本音が出ちゃったんだろう。

那旺:「ねえ、H君さあ。あなた、この後に及んで・・・聞くけどさ、

もしかして・・・誰の味方なんだっけ？」

私は自分が表した金額が(根拠はないけど、)最適なんだと信じているんだよ。

今は。。👉」

(何を以って最適だか知らぬが、

今はキネシオロジー中毒にハマっている装いで演技している真っ只中であ～る)

H君には、私の考えをこれまでに何度も伝えている。

というのは、私は引越し費用のお金は取れても取れなくても全く構わない。

家賃が6ヶ月無料で敷金がまるまる返ってくるだけで、

十分幸せなんだと本気で思っていることも。

私はただ実験したいだけなんだ！

「地上げ屋さん」を「お金の神様」と本気で思えた時、

エネルギーがどう変わっていくのかを確認したいだけなんだ！

(悪趣味かもしれんが、知りたいんだもん)

H君の頭には、それがどうにも入っていないみたいだから、

モウしゃあないのです。



(この脳天気くん、いい人ですから)

そうこうしていると、

お金の神様:「ちょっと上司と相談してきます。電話するので外に行かせて貰います🏃‍♂️」

と言って、部屋を出た🚪

H 君は、お金の神様がいなくなった途端、「またやってもうた〜」

というような顔😓をしているので、

那旺:「これって、私の交渉なんだから、

あなたはここに居てくれるだけで十分なんだからね！」

って言って終わらせた。

お金の神様は、多分上司に電話をしに行ったのではない気がする。

いっぷくするために行ったのだろう。

帰ってきたお金の神様:

「すみません。上司と相談した結果、私はこの交渉を降りることにしました。

お宅さんとの交渉は、占いだとか弁護士とか、

なんや私にはようわからなくなりましたので。

次には、上司の〇〇という名前のものがお邪魔しますので、よろしくお願いします。

上司の〇〇は、かなり圧力をかけてくると思います。

結構怖い態度で来るとは思いますが…、

でも、お宅さんの意志をしっかり持って、それを貫いてください。

そう簡単に心根をひるがえさないでください。

そうじゃないと私が困ります。何故なら私に能力がないと思われるじゃないですかあ。」

それを聞いた私は、

那旺:「そっか〜👉うん、いいよ。

また違う地上げ屋さんとお話出来るのね。

本当に残念だな。

せっかくお知り合いになったのにこれでもうお会い出来なくなるのは寂しいな？

次回は上司と一緒に来てくれたらいいのに…、

でも経費がかかっちゃうもんね。

長い間、色々教えてくれてありがとう。👉」

多分、この反応って、地上げ屋神様からすると、カクン👉と来たかもしれん。

何故なら、後でわかったことだが、「怖い人が来る！」と聞かされたら、

大抵の人は、コレにビビって、

「この金額で手を打たせて貰います」

って言って、契約の運びになるはずなのだ。

でも、私は地上げ屋神様の意図にちっとも気づかずに、

「また新しいお金の神様に会えるんだ〜👉」

って、本気で喜んでしまったから、地上げ屋神様の経験則でいうなら、

お約束通りのちゃんと怖がる👉の反応をしそびれていたのだった。

私は「No problem だよ〜ん。」って言ったから、

とうとうお金の神様は帰ってしまった。

次のお金の神様は、上司だからもっとバージョンアップしてるのかなあっと、

実験材料の楽しみが一つ増えて喜んでいる私。

H君:「あんさん、あの金額でようおまへんか？」

那旺:「だよ、私もそう思う。これ以上の交渉も面倒くさいもんね。

そもそも有り難いお話だし・・・。

でもキネシオロジーで金額がしっかり出ちゃったのに、

お金の神様が提示された金額とちやうからさ、

そんなはずはないってついごり押ししたくなって・・・、

とうとう引き下がりそこねて、子供みたいに駄々をこねているみたいになっちゃったんだ〜。

変態でごめんね！立会人としてH君が来てくれているのは感謝しとる」



(とりあえず、愛嬌のつもりで、ペロンチちょ・・・変顔してみた)

今日はいったん解散。

「おごるから焼き鳥でも食べようぜい！」

と、京都美人の焼き鳥屋女将のところへ二人して癒されに出かけた。

.....



その後、お金の神様から上司とのスケジュール調整をしたいというメールが届き、

私は、何日か日程を提示した。

が、その後2週間経ってもなんの返事もなかった。

大事なスケジュールを何日か空けているのに、

そこをずっと空けて待っていることは忙しい私にとって、気になることだ。

.....。

そうこうしているうちに、お金の神様から電話が来た。

お金の神様:「わたし、上司に繋ぐの嫌なんです。

この仕事、私で終わらせたいんですねん。

だから上司にはスケジュール調整のことは、まだ言ってないんですう」

**なんじゃそりゃ...**

あんさんが勝手に役目を降りて上司に繋ぐとか言っついて、

人のスケジュールを空けさせて、2週間も待たせた挙句に。

「ほんまにいい加減なやっちゃ〜」

と、言いたかったが、お利口さんの私は堪えて聞き流した。



**(無理くりお利口さんにしているが、無表情)**

あとを引き継ぐ上司が、  
本当に怖い人なのかヤクザなのか、な～んてことは興味もないが、  
その脅し言葉に、私が怖がってあげなきゃいけないんだと、改めて気付いたら、  
そのような芝居めいたことは、だんだんどうでも良くなってきた。  
だって私もお金の神様をおちよくって、似たようなことをしていたし・・・、  
これは心理学用語で「投影」ごっこをしていた・・・ちゆうことで、腹に落とした。

お金の神様:「すみません。あの金額で手を打ってください。

ほんま。これ以上は勘弁しておくれやす👉」

っと、神様は電話だとやけに強気になれるんだのう。

も～～、照れ屋さんなんだから。。

(と、心の中でつぶやく私)

そんな時に、私の頭の上に電卓がポロロンって降ってきた。

(目には見えないエネルギー電卓だけどさ)

電卓の両端から手が出ていて、

勝手に自分の体の一部分であるキーを叩いて計算してるのね。

(読者の皆さん、私、頭のおかしい人だと思いますう?)



(私、「手やんで～電卓どん」と申します)

で～その人、おまけに賢そうに喋るのだ。

## 8章 『手やんで～電卓どん！って、だあれ？』

手やんで～電卓どん:「ねえ～え、那旺はん

お金の神様に、ちょろっと聞いてみておくれやす。

神様が提示している引越し費用💰には、6ヶ月分の家賃が含まれてくれるの？

それとも含まれてくれないの？」

那旺:「あらら、手やんで～電卓どん！突然に友情出演でっか？

私は、6ヶ月分の家賃が含まれている金額だと思って交渉しているけどさ～。

えっ！まさか6ヶ月分の家賃が、引越し費用に入らないなんて～いう・・・、

そんな都合のいいことは考えてもみなかった。

今更ちょっと言いにくいけど、ちょろっと聞いてみるね。」

~~~~~

「手やんで～電卓どん」は、

かつて私が会計事務所に勤めた時によく出てきてくれたお助けマンです。

なぜか突然現れて、「ソコ、チガウヨ！」って、

高めの声で喋ってはスウッと消えるお方でした。

初めは、頭がおかしくなったのかと思い、あたりを見回しても誰もいないし、

でも、電卓どんの教えてくれた通りに、ソコには間違いが必ずありました。

税理士試験の時も教えてくれたのに、パニックのお陰で電卓どんの声を

無視して、マジで大きな痛手を負ったこともある。

~~~~~

私は、恐る恐る、お金の神様にそのことを尋ねて🔍みた。

お金の神様:「何、言ってはるん？家賃は引越し費用には含まれておまへん。

ここだけの話ですが、お宅さんは家賃6か月分を免除にさせて貰うことにしていますが、

中にはそうじゃない人もおるんです。

普通に家賃も払ってもらっているお客さんもおるんですわ。

そんなことって、こちらの胸一つ👍で決まりますから。それがわたらの商売のやり方です。

その上、お宅さんは、ここでは一番高額を出しています。

それは私の気持ちの表れですわね。これ、嘘ついてないですからね。

嘘なんてついても、どうせバレますやんか〜。

だからこそ、お願いします。堪忍してくれまへんやろか。

私で、決めさせてくださいまへんか!?

私、2週間後に入院することに決まりました。

隣で、とうとう。長い間の酒🍷がたたってまして…。

それも有って、急いでいるんです。それに上司にはこの仕事を渡したくない。

私にも長年やってきたプライドっっちゃうものがあるもんで。

最後まで全うしたいんですわ。」

さすが、大阪仕込みの「情」というエッセンスをたっぷり振り掛けられると、

話しは美味しく聞こえてくる。これこそ、吉本仕込みのなせる技。

(お金の神様は吉本興業に少し在籍していたようで)

吉本というより人間が持つこの「情」というエッセンスは、

白いご飯に🍷フリカケがあるのと同じように、

時には特別で嬉しいよね〜…みたいな、

こういったコミュニケーションが人間は好きなんだな〜と、

まるで自分が宇宙人かのように感じてくる。

それにしても、びっくりなのは、私の誤算だ。

誤算というか、聞き漏れていただけなんだけど、

引越し費用の中に、家賃6ヶ月分が入っていないというのは朗報だった！

わ〜い、びっくりす!!



(そこまで驚かなくても、📺吉本新喜劇じゃないんだからさ〜)

やっぱり、「手やんで〜電卓どん」は、頼りになる存在です👨🏻💻。



(ヤフォ〜〜！お役に立てて嬉しいどすえ〜)

っと、気づいた時には、もうとつくにどっかに行っちゃっている👨🏻💻のが、

「手やんで〜電卓どん」の特徴でしたね。

こういう見えない存在は、いつも無条件の愛がベースなので、

「あなたのために、私が👉👈こうしてやった」とかの思いが、

ちい〜〜〜〜〜ともないみたいで、

「情💢」とかじゃないのね、「愛💖」そのもの。

存在自体が、ソノモノなのだ。

ところでですよ〜、…………

私はお金の神様と電話をしながら、

キネシオロジーで出た金額から家賃6ヶ月分を差し引いてみた。



(え〜と、え〜と、最近2桁程度の暗算も怪しくなって来たじよろじよろ)

あれ、あれあれれ〜

もう一回。検算。

お金の神様が提示した引越し費用に家賃6ヶ月分を足してみた。

ハレホレヒレハレ〜

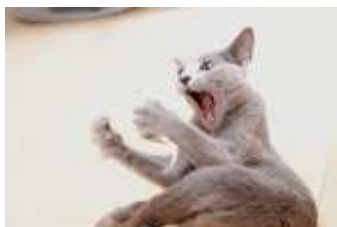
ピンポ〜ン👉

完全一致です。

キネシオロジーで出た金額と、地上げ屋さんの提示した引越し費用が、

完璧な形で、一致しとったで〜。

キネシオロジーって、マジすごい。



(なんちゅう完璧な宇宙の流れぎゃ〜)

そういう仕組みだったんだ！

H君がお金の神様から金額を聞いた途端に、

「それで、手を打ちましょう！」

っと、返事をしてしまったのは、

宇宙からの「ピンポ〜ン👉」が聞こえたせいかもしれないね。

本当にこの世界は投影。

人や物を介して教えてくれる。

目に見えない存在達が情報をたくさん発信してくれている証拠だね！

.....

さ〜て、お話しは戻って、お金の神様の話によると、

神様は長年のお酒の飲み過ぎで酷い数値の膵臓疾患になり、

2週間後には入院行きの身柄のようです。

那旺:「じゃさ〜、取引しようよ。

2週間後に入院するにもかかわらず、どうせ性懲りも無く晩酌しとるんやろ？」

お金の神様:「はい〜、お恥ずかしい話ですが、

少しだけ量は減らしましたが、晩酌しております。

今は缶ビール2本と、焼酎を3〜4杯ですかね〜🍷🍷」

那旺:「入院前でもそんなに飲んでるんだ〜。

そんなことをしていたら、死んじゃうよ。

まだお子さんは小さいんでしょ？そういう人を東京弁ではおバカさんっていうのね。

大阪弁ではアホな人っていうのだ。

子供を3人も産んでおいて・・・、ちゃんとしなさい🔪！」



(頭、げんこつ👊ごっつん。)

「わたしの取引というのはね・・・、地上げ屋さんが入院までの間、  
お酒をやめると約束したら、  
地上げ屋さんの決めた引越し費用💰で承諾してもいいよ！」

これこそ、こじつけ取引なのだ～。

引越し費用の落ちをつけるために、他人の問題に首を突っ込み、  
ちょっかいを出している私。

これを心理学的には境界線越えというのだ～。

(でも、お金の神様のこと、好きだから・・・)

お金の神様:「くうえ～、あんさん何をおっしゃられているんですか？  
言っている意味がわかりません。これは私の健康の問題ですよ。  
何でお宅さんが、私の健康を心配しなきゃならないんですか？  
それも引越し費用と引き換えに・・・？」

ホンマ、初めっからよくわからないお人ですわ～、👉ホンマ。。

私にお酒をとったら・・・、うおえええつ～。

考えただけで無理ですわ。あきまへん。お約束できまへん。

無理・無理・無理・・・。

嘘つきたくないし。晩酌やめたくないし・・・。



17歳から1日も酒は止めたことないし。

.....

それにしても泣けてきますわ。そんなこと言っていただけで...

見ず知らずのお人に...、ククッ💧(とりあえずしみりしている)

すんまへん。(気を取り直したように)

そしたら、少しおまけしてもらって、

ビール2缶だけ飲ませてもらってもいいやろか？」

コノゴニオヨンデ・コノヒト。。

(でも、まあ、いいか🌟🌟)

那旺:「しゃあないね〜。ちっちゃい方のビール2缶🍺🍺だよ。

嘘ついちゃ、嫌だからね。どこにも証拠ないからさ。

証拠は良心💖だけだよ。」

お金の神様:「わかりました。嘘つきません。頑張りますう。

では、その金額で成立させていただきます。

書類は郵送📧してもいいですか？」

那旺:「ダメダメ! 退院したら書類を持参👉してね。

顔見れば健康になったかどうか、わかるから。

チェックしてから、ハンコ押すわ。

じゃあ、今日から欲に溺れないで頑張ろうね〜」

お金の神様:「.....。👉ワカリマシタ👈」

お金の神様はちょぼとくらい身にしみたのか、

抵抗はしたけど、しぶしぶ約束をしてくれた。

多分、そんなことくらいでお金の神様はお酒をやめないだろうと思ったが、  
この約束が、ほんの少しでも抑止力となって、  
神様の命を繋ぐことになったらいいんじゃないかなあってね。。

私の命も、お金の神様や、H君みたいな人間さんたち、宇宙や、細胞っち、  
そして、「手やんで～電卓どん」みたいな見えない存在を含めて、

毎回毎回、どれだけ助けられて生き延びてきたことか。ホント！奇跡なんだよ。

ど～んと愛されているんだ～♡



(Oh～、天と地よ～。わてらは千代に八千代に繋がってるんだ～)

さてさて、それから1ヶ月経ち、

無事退院したお金の神様が最後の契約締結にやってきた。

見た感じ、2キロはスッキリしている。浮腫が取れたんだろう。

そして顔つやもよくなっている。

もしかして、お金の神様は、律儀に約束を守ってくれたのかもしれない。

と思ったが、私はその事については母親でも妻でもないんだから、何もふれなかった。

(あとは良心ですから)

お金の神様:「それではこれから契約書にサインをしていただいて、よろしおすか？」

私はダメ元で、言ってみた。

那旺:「そういえばさ～、

私って、お金の神様が6ヶ月分の家賃を免除すると言ってくれた時点で、

すでに1ヶ月分の家賃を振り込んでいたんだけどさ～、

そうなるよ、5ヶ月分になっちゃってるよ。それって、どう思う？」

お金の神様:「そうでっか?? まあ、この際、全然オーケーよ。

そんなら金額、訂正しましょうね～。え～と〇〇円・・ちゆうことで📁」

な～んて～・・言ってみるもんだね。こんなに簡単に話が進んどる。

あっさり家賃1ヶ月分、ゲットしました～。

お金の神様:「え～と、これが手付金ね。封筒に5万円入っています」

って、封筒を渡された。

5万円?? と聞いて、ハツとした。

そうか～、お金の神様が初めて来た時に、

マンションの住人に

「奥さん、今日、ハンコついてくれたら特別にいい事ありませ～。👩」

って、家計を節約して日々切り盛りしている主婦心をたぶらかしていた。

つまり、交渉に5万円をチラつかせて、明日じゃダメなのね、

今日だけの契約ですから・・ってな風に。

「今日だけワゴンセール🚩」ちゆう魔物は、



(へへへ～、弱みに付け込んでやっからな～)

この5万円の封筒だったのか～。

(おぬし・・・、め～)

見てみる👁️と、お金の神様のジュラルミンケースには、  
5万円が入っている白い封筒が10枚以上は用意されていて、  
まるでトランプのカード♠️を扱うみたいに、バサバサと出していた。

な～んだ、

「今日」申し込もうと、私みたいに「3ヶ月」ゴネようと、結局一緒やん。

今日限定なんて、初めっから嘘やん。

っと、今まで起きてきたことを振り返った。

.....👁️

私は封筒に入っていた5万円を手にとって、

那旺:「地上げ屋さん、これあなたのぶんね！快気祝いよ。」

っと言って、3万円を渡した。

「人様にお世話になった時は自分だけ儲けてはならないのだ～。」

って、商人の娘だった、20年も前に亡くなった母親の教えを、  
今もちゃんと守っている那旺ちゃんです。



(ママ～ん。私もちゃんと商人でできるかな??)

この3万円と言う金額は私の中で最初から決まっていた。

なぜなら、キネシオロジーがそれを差し示したからだ。

私は、キネシオロジーで引越し費用の金額を聞いたのと同時に、

「この契約が無事に成立した時に、

お金の神様にどれだけのお礼をしたらいいでしょうか？」

とも、聞いていたのね。その金額が3万円だった。

お金の神様:「ええ?? 頂いていいんでっか？」

ほんなら遠慮なく..ではでは..」

お金の神様はそう言って、

なぜかすごい勢いでお金をジュラルミンケースの奥の方にしまった。

私的には、その受け取り方が、あまりにもあっけない気がしたが、

お金の神様には、私の言う「快気祝い」と言う言葉は耳に入っていないようで、

どういうわけか口止料の様に解釈している。

別に口止めしてくれなくてもいいんだけど..と思ったが、

お金の神様は、お金を手にした瞬間、一言、

「口止料でっか・・・」

っとブツクサ小さな声でつぶやいた。

意味がわからないけど、お金の神様がそう解釈したみたいなのだ。

どういう頭の回路🌀になっているんだろか？

きっと、お金の神様なりの受け取り方があるんだろうねえ。🙄

.....

人間というものは、解釈の塊なのだ。

この時から、

お金の神様👑は、私の中で人間の姿に変わった💀

私たちの目は見方次第で、状況が変わって見えてくるものだ。

物の見方とはその人の解釈(映画の字幕)です。

恐れを基準に生きていくか、そうでないかでは、

人生の彩りが変わってくるものね。

それがエネルギー(投影)の性質だから・・・。

お金の神様～💎

3ヶ月もの間、遊んでくれてありがとう。

あなたが来てくれたからこそ、

6年もの御嶽山での暮らしが、ダイナミックな終わりを告げようとしているよ。

そして欲しい分だけの引越し費用をプレゼントしてくれて、

こんなにたくさん、人生に彩りと豊かさを届けてくれて本当にありがとう💖

.....

「さあ、あなたはあなたの人生をどう生きたいですか!?!」

「不安、恐れ、疑い、妬みさん」と仲良ししますか？

「喜び、感謝、祈り、信頼さん」と仲良しになりますか？

お金の神様👑は、いったいどこからやってくるのでしょうか？

(これでおしまい..長い間ありがとう❤️)

## 終章 『大田区御嶽山への思い出・その後』

地上げ屋シリーズ、チンタラと掲載してしまいましたが、

思いの外、読者の方々に喜んで頂けたようで、とっても嬉しいで～す❤️

続編なんって～のはありませんが、ちょろっと.....だけ。

~~~~~

そろそろマンションではお引越しの準備が整った方から、

ポツリポツリと出て🚗行かれています。

このマンションは、全壊💣されるのです。

そのあとは、どうなるのかな？

多分、ここを小さく区画して土地付き家屋🏠として売却するのだと予想します。

ここまでの恒例行事だと、

マンション周辺にある樹木🌲のせん定は、夏の間に行われているはずが..、

.....未だに無し。

そんな訳で葉っぱ🌿が生い茂っているせいなのか
いつもより鳥たち虫たちはイキイキと騒いでます。

樹のせんでいがない。👉

裏を返すと、私やクライアントさんを癒して💡くれた樹たちは
マンションを壊すのと同時に伐採されてしまうのだらう。



(間もなく・命尽きるまで私はあなたを讀えます)



(一緒に歩んでくれた樹木さんたちだね～)

だから私は、レースのカーテンを取り外し樹を👁️見ながらセッションするようにした。

ここを出るまでの間、彼らの姿を目にしっかり刻みこんで別れを惜しむ。

やっぱり胸が痛い。泣けてくる😭

ありがたいのは、継続セッションをしてくださったクライアントさんが、

この部屋との別れを惜しんで、セッションの帰り際に玄関のところで手を併せてくれる。



(お部屋さん本当にありがとう。あなたとの思い出は忘れないわ)

クライアントさん:「あ～、私はここに初めて訪れた時は、

目の前が真っ暗で人生の行き場がわからなくなって、

辛くて苦しくて悲しくてボロボロだった。

人のせいにしたり、自分を責めたりと、こんなことで私の人生は終わってしまうかと・・・。

でも、でも、今は違います。こんなに自分を愛することができている。

家族ともずっといい感じになって・・・あの頃は、こんな風に楽に生きれるなんて、

想像もつかなかった。

この部屋は私にとって、新しい私を産んでくれた思い出の場所です。

と言っても、不思議ですねえ。あの狂気な出来事って

たった3ヶ月前のことだったんですよね。

考えただけでも恥ずかしくなっちゃいます。

私の一人劇場ですよー。あの頃の私は、記憶の遠くにあります。

というか、記憶喪失ってこんな感じですかね？

ああ～💧・・・思入れの深いこの部屋。

私の感情を吐き出して、ただそのまま受け入れてくれたこの場所。

感謝そのものなんです。・・・本当にありがとう。

今、目にしっかり焼き付けて帰ります。」

ってなことを(それなりに翻訳して書きました)

言って、お帰りになるクライアントさんが何人もいてくれます。

こういう気持ちって凄いよね～。

…それだけで、私は癒されました。(しんみり)

さて、次の住処はどこへ行こうか！

ふと……、^{~~~~}

今までずっと私をサポートしてくれた

御獄神社の氏神様と私は離れてもいいのだろうか？



(ここ、素晴らしいです。神主さんもハンサムで好き！)

そう、問いかけたら、

御獄神社の神さん:「いやいや、こちらからのサポートはまだまだしまっせ！

あなたにしか出来ない、もっともっと大きな働きが待ってるからのう。」



(あれまあ・寄り目にしてから、あんがと)

そんなこと言って貰えちゃうんじゃ、

これからはセッションルームの波動調整にいそまなくてはならぬわい。

波動マニアとしては色々秘策🗝️がありまして～、

^^^~い💕💕

セッションに来てくださるクライアントさんが

最高の状態でセッションを受けられるようにするのが、

👤変態セラピスト・那旺の役目でございます。



(変態セラピスト那旺、頑張ってみよ～)

(大田区御嶽山への思い出シリーズ:これでおしまい)